



Web Fairy Paradise

第50号

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第44回 WFP フェアリー作品展(再掲)
- ・ 第45回 WFP フェアリー作品展
- ・ 第58回 推理将棋出題

結果発表

- ・ 第43回 WFP フェアリー作品展
- ・ 第57回 推理将棋出題
- ・ JIGSAAW BOX #07
- ・ Fairy of the Forest #32

読み物

- ・ 『矢絰Ⅱ』までの道のり (神無太郎)



2012/8



今年の夏のメインイベントと言えばやはりロンドンオリンピックでしょう。しかしながらロンドンの時差はかなり厳しくてサッカーの決勝とか深夜3時半とか…若い時なら頑張ってリアルタイムで応援したんですが、今回は寝ちゃいました。体調がすぐれないのもあるんですが無理できない年になったんだなあと感じます。

自身もプレーヤーである為、今回のオリンピックで一番注目していたのはやはりバドミントン。藤井・垣岩組が銅メダルを獲得して一躍話題になりました。しかしスエマエならまだしも藤井・垣岩組の名前を初めから知っていた人はバド関係者以外いなかったことでしょうかねえ。スエマエより世界ランキングは上でしたので実力は日本でトップだったんですよ。

ただ今回お茶を濁したのが無気力試合でした。お互いが負けようとする試合の動画を見ましたけどこれは酷い。アスリートとしてありえない(怒)。予選リーグで4チーム総当りで負けても上がれる(2位まで)という競技形態に問題があったと私は思います。予選は3チームリーグで1位上がりにすれば問題なしでしょう。そんな中、メダルに届きはしませんでした。男子シングルスで佐々木翔選手が金メダルを獲った林丹選手に大善戦した準々決勝の試合は見ていて手に汗握る試合で30歳にして初出場した佐々木選手の闘志溢れるプレーに感動しました。今回のオリンピックで一番のプレーでした。

さてWFPですが、今月号が記念すべき50号となります。いまさらながら気づいてお恥ずかしい次第で気の利いた催しも考えていなかったのは大失態でした。

【募集】

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第50号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々のHPアドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://www.abz.jp/~k7ro/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

イラスト・素材提供：幻想素材サイト First Moon

<http://www.first-moon.com/>

*表紙のイラストを使用させて頂いております。

第44回WFP作品展(再掲)

第45回WFP作品展出題 担当：神無七郎

毎回この前書きでは、詰将棋の話をおほとんどしていません。前は特にそうでした。ですから、今回は反省も込めて今月の詰パラの感想から始めたいと思います。

今月の詰パラの結果稿には、地味に興味深い作品が並んでいました。例えば「大学一般聴講」出題のやよい氏作「田子の浦」。誰でも思いつきそうで、意外と誰もやらなかったネタです。内容は「出雲川」の斜め版。通常は横方向に進む趣向を斜め方向に進むよう変化させたものですが、他にも方向を変えたら面白い作が得られるかもしれません。例えば馬鋸軌道を進む龍鋸なんてどうでしょう。えっ、それはもう看寿が飛でやっている？ いいじゃないですか、少しくらい前例があっても。考えれば看寿とは別の実現方法が思い浮かぶかもしれませんよ。

方向繋がりと言えば、「デパート」出題の菅野哲郎氏作「はね駒」も面白い作でした。斜め45度の方向ではなく、斜め30度に進む趣向というのは、なかなか見ることができません。もちろん、無理やり軌道を設定して、そこしか玉が通れないようにすれば出来ないことはないのですが、この作はうまく駒を組み合わせる自然に2:1の軌道を進ませています。ただ、これを発展させて3:1とか4:3等の軌道を作れたとしても、9×9の将棋盤では繰り返し回数が限られそうです。やはり、この種の趣向はフェアリーで実現すべきものなのでしょうか？

もう一つ、単純に楽しめたという意味では、「大学一般聴講」出題の町田和也氏作も印象に残っています。筆者はこういうちょこまかとした駒繰りは理屈抜きに大好きなのです。

ただ、町田氏の作品は理屈の方でも興味深いものがあります。収束に打歩詰打開のための攻駒の原形消去が出るからです。そして、これを「詰棋めいと」第32号にある湯村光造氏の打歩手筋分類表と見比べて、ピッタリ当てはまる項目がないことに気付きました。主目的「玉の退路を作る」、従目的「困い駒を減らす」まではきちんと当てはまるのですが、「手段」が「詰方駒を移動して」の項目しかなく、原形のまま消去する本作とはイメージが合わないのです。

実は、湯村氏の打歩手筋分類表は、古い版では「詰方駒を移動・消滅して」と、原形消去を含むことが明示されていました。それが改版を

重ねる内に原形消去も移動の一種とされて省かれてしまったようなのです。他の項目では結構細かい手段まで分類されている場合もあるので、この不釣り合いは気になります。駒の移動に関しては分類し出すときりが無いという事情があったのかもしれませんが、素直な元の表現の方が良かったと思うのは、筆者だけでしょうか？

ちなみに原形のまま詰方駒を消去して打歩を打開する作品は筆者も作ったことがあります。橋本孝治普通詰将棋作品集第26番(http://www.geocities.jp/k_7ro/o26.html)がそれです。この作品の場合、打歩詰に絡む香は2枚ですが、その前に1枚香があって消去の邪魔をしているので、それも消します。また香消去1回につき持駒歩3枚が犠牲になります。一口に原形消去と言ってもその表現は様々。分類表にある既存項目でも、具体化すれば字面から受けるイメージとはずいぶん異なる表現が可能はずです。

この文の最初に「地味に興味深い」という微妙な表現を使いましたが、新機軸とまでは行かなくとも、既存の手筋や構想を今までと違った観点で見直したり、別の機構で実現するだけでも、新作として通用する作品はいくらでも作れるはず。これは普通詰将棋に限った話ではないことも付け加えておきましょう。

さてこれから本題のWFP作品展の説明です。

今回のWFP作品展は前月から解答を募集している第44回作品展の再掲載と、今回新規に解答を募集する第45回作品展の2つで構成されています。

本来なら両者を同じ締切(9月15日)に設定して一ヶ月一作品展の正常運行に戻したいのですが、出題数や難易度を考慮して、第45回作品展の締切は10月15日に設定しています。

〔第44回作品展各題への補足説明〕(再掲)

44-1はPWCの基本手筋を利用した作品。PWCを解くのが初めての方は、PWC小作品集(<http://www.abz.jp/~k7ro/book/PWCStudies/index.htm>)や、PWCばか詰作品展(<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/PwcS.html>)などを参考にしてください。

44-2は二玉詰で金の枚数が16枚に拡張されています。これ以外は通常枚数の設定で解いてください。協力詰ではないので、受方は詰まないよう抵抗します。

44-3はタイプAのIsardam特有の派手な応酬が飛び出します。WFP48号の「第12回詰四会フェアリー作品展解答」が参考になるでしょう。

44-4 は双方の玉がナイト（騎）の性能の作品です。44 手なのでここに持ってきました。今回の最難問ですが、予想し易い最終形なので、最短ルート探しに徹すれば解けると思います。

〔第 45 回作品展各題への補足説明〕

45-1 は安南協力詰の裸玉。この分野は持駒 2 枚以下については調査が完了していますが、持駒 3 枚以上はまだ全貌が知られていません。

なお、本作は利き二歩有効でも利き二歩無効でも同じですので、そこは気にせずに解いてください。

45-2 は極めて野心的な作。ルールは基本的に普通の詰将棋ですが、ルール解釈で混乱が生じないように、以下の 2 点を明確にしておきましょう。

- ・還元型無駄合の概念を利用する
- ・収束余詰を許容する

議論の多い前者と比べ、後者は一般的に広く受け入れられているルールですが、ここで明示的に宣言しておきます。駒余りや長手数順の有無に関わりなく、攻方最短の詰手順のみ解答してください。

45-3～5 は小林看空氏によるクィーン（Q）を詰める協力詰です。難度を考慮して、出題順を投稿順と若干変えています。もともと、これは担当者の主観的な難度なので、皆さんの感じる難度とは異なるかもしれません。

なお、45-2～5 はいずれも受方持駒に制限がありますので、指定された駒のみを使用して解いてください。

解答要項

解答締切：

第 44 回：2012 年 9 月 15 日（土）

第 45 回：2012 年 10 月 15 日（月）

宛先：janacek789@ybb.ne.jp

メールの件名に「解答」の語句を入れてください。

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。（原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載します。）宛先は解答と同じ janacek789@ybb.ne.jp へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。f m 検討済みなら.fmo 形式のファイル添付を推奨します。

ルール説明

【PWC】

取られた駒は取った駒が元あった場所に還元する。二歩や行き所ない駒になるため、復元できない場合は、通常の駒取りになる。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【二玉詰】

複数の玉のどれかを詰ます。
王手もどれかの玉に掛ければ良い。
王手を外せなければ詰み。

【Isardam】

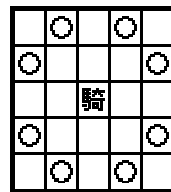
同種の敵駒の利きに入る手を禁止する。
玉を取ると同種の敵駒の利きに入る場合は王手とみなさない。（タイプ A）

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【ナイト王】

玉がナイト（騎）の性能になる。
ナイトはチェスの駒。八方桂。



（○が騎の利き）

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト（王手は掛かっていないが合法手のない状態）にする。

【安南】

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

【還元型無駄合】

盤上の配置が同じで攻方の持駒だけが增える局面に至るような合駒はしない。

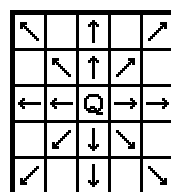
【異王（X/Y）】

攻方の王が X の性能、受方の玉が Y の性能になる。

（今回の出題作では攻方王は王のまま、受方玉が Q の性能になっている。）

【クィーン】

チェスのクィーン（Q）。飛車と角を合わせた性能を持つ。



（矢印が Q の走る方向）

《第44回 WFP 作品展》(再掲)
 解答締切：2012年9月15日(土)

■ 44-1 神無太郎氏作

PWC協力詰 15手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
							歩	四
								五
								六
								七
					王			八
								九

持駒 香2

■ 44-2 変寝夢氏作

二玉詰 31手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
					皇		皇	一
					王	王		二
					桂			三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 金16

■ 44-3 神無太郎氏作

Isardam協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 飛角

■ 44-4 変寝夢氏作

ナイト王成禁協力自玉スタイルメイト 44手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
歩							歩	二
								三
				歩				四
								五
								六
歩							歩	七
								八
							騎	九

持駒 金

《第45回 WFP 作品展》

解答締切：2012年10月15日(月)

■ 45-1 神無太郎氏作

安南協力詰 13手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
								六
								七
							王	八
								九

持駒 銀歩2

■ 45-2 洞江元太氏・志賀友哉氏作

詰将棋 27手 ※還元型無駄合概念あり

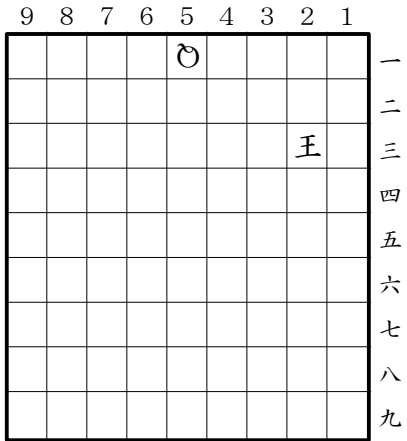
9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								一	
								二	
								三	
								四	
				と	歩	銀		五	
				銀	王			六	
				皇	香	驥	歩	桂	七
									八
									九

攻方持駒 飛

受方持駒 香2

■ 45-3 小林看空氏作

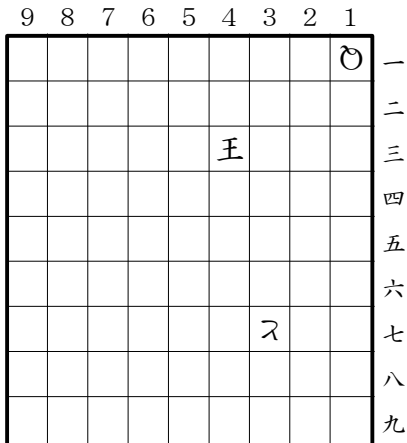
打歩異王 (王/Q) 協力詰 15手



攻方持駒飛
受方持駒歩2

■ 45-4 小林看空氏作

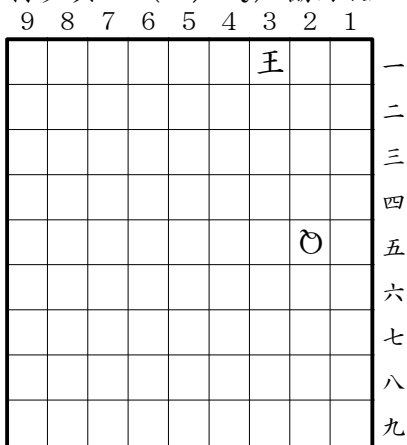
打歩異王 (王/Q) 協力詰 15手



攻方持駒飛歩
受方持駒なし

■ 45-5 小林看空氏作

打歩異王 (王/Q) 協力詰 19手



攻方持駒角
受方持駒歩2

推理将棋第58回出題 担当：DD++

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第58回出題です。はじめての方は

どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門

(http://toybox.tea-nifty.com/memo/2007/05/post_53f2.html) をごらんください。

解答、感想はメールで2012年8月20日までにTETSUまで (omochabako@nifty.com) メールの題名は「推理将棋第57回解答」でお願いします。

推理将棋第58回出題 担当 DD++

今回は初級2問と上級です。推理将棋に慣れている方は上級に使える時間がたっぷりあることでしょう。初めての方も初級が2問なのできっと手を出しやすはず。

初級2つは山葵茶漬けさんから8手の姉妹問題。特に1つめは指し手がかなり見え見えなので入門と言っているかもしれない難易度です。上級は打って変わってチャンプさんから歯ごたえ抜群の問題。推理将棋慣れしている方でも苦戦を強いられるかもしれません。

■練習問題

「さっきの将棋、▲26歩△52金右▲25歩△42玉▲26飛△32玉まで見てたけどどうなった？」
「9手で詰んだよ、って言えば残りの3手は分かるよね」

さて、残りの3手はどんな手だったのでしょうか。

■本出題

58-1 初級 山葵茶漬けさん作

左から順に 8手

4枚のうち2枚の行き先は明らかですね。

58-2 初級 山葵茶漬けさん作

左から順にII 8手

初級とよく似ていますが、一度思考をリセットしてからどうぞ。

58-3 上級 チャンプさん作

少年の将棋は？ (その5) 13手

3種の先手王手、トドメになるのはどれ？

■締め切り前ヒント (8月16日 DD++)

締め切り前ヒントです。

初級1：68へ上がった金を奪って打ちましょう。

初級2：88で角を奪って打ちましょう。

上級：4回の王手は、5手目角不成、8手目角打ち、11手目角打ち、13手目角打ち。玉の最終位置は14です。

58-1 初級 山葵茶漬けさん作

左から順に 8手

「昨日恥ずかしい将棋指しちゃったよ」

「恥ずかしいってどんな将棋だよ」

「初手から、左銀、左金、玉、右金、と順番に動かしていったんだ。」

ところが9手目に右銀を動かそうとしてあることに気づいたんだ」

「動かせる場所がなかった、とか？」

「半分正解」

「半分？ どういうこと？」

「確かに動かせる場所もなかったけど、そもそも9手目がなかったのさ」

「あー、こういう手順で8手で詰んだわけね。」

この手は成生どっち？」

「普通の将棋だもん、わざわざ不成の手なんてあるわけないよ」

さて、どんな将棋だったのでしょうか。

(条件)

- ・ 8手で詰んだ
- ・ 先手は「左銀、左金、玉、右金」をこの順で動かした
- ・ 終局時、先手の右銀を動かせる場所はなかった
- ・ 不成なし

58-2 初級 山葵茶漬けさん作

「今日また恥ずかしい将棋指しちゃったよ」
 「また初手から、左銀、左金、玉、右金、と順番に動かしたのか？」
 「そうそう、今度は9手目に右銀を動かす場所を残しておいたんだけどね」
 「でも動かせなかった、と？」
 「そう、またしても8手目で詰まされちゃったからね」
 「今度はこういう手順で詰んだわけね。この手は成生どっち？」
 「だから、普通の将棋にわざわざ不成の手なんてあるわけないって」

さて、どんな将棋だったのでしょ。

(条件)

- ・ 8手で詰んだ
- ・ 先手は「左銀、左金、玉、右金」をこの順で動かした
- ・ 終局時、先手の右銀を動かせる場所があった
- ・ 不成なし

5 8-3 上級 チャンプさん作

少年の将棋は？ (その5) 13手

少年A 「君の将棋早く終わったみたいだけど、どんな将棋だったのか教えてよ。」
 少年B 「どんなと言われても、王手が4回あって13手で詰ませて勝っただけだよ。」

少年A 「それだけでは何も分からないよ。」
 少年B 「仕方がないなー、じゃあ僕 (先手) が指した王手の内容を教えてあげるよ。」

少年A 「そうこなくっちゃ。」
 少年B 「不成りの王手があった」
 「一段目に持ち駒を使う王手があった」
 「九段目に持ち駒を使う王手があった」

少年A 「もう一回は？」
 少年B 「それは相手 (後手) の王手だから教えられないよ。」

さて、どんな将棋だったのでしょか？

(条件)

- ・ 13手で詰んだ
- ・ 王手が4回あり、内3回は先手の王手 (1回は後手の王手)
- ・ 先手の王手の内容は
 - ・ 不成の王手
 - ・ 一段目に持ち駒を使う王手
 - ・ 九段目に持ち駒を使う王手

■練習問題解答

問題以下、▲24歩△42金寄▲23歩成まで。

26 飛という手があるのでここから横に動かすのかと考えそうになりますが、残念ながらこれはヒッカケ。推理将棋では見えている手が必ずしも意味を持つとは限りません。意味ありげな手にくれぐれも騙されないように。

詰上り図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀			金	銀	桂	香	一
	飛				金	玉	角		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	と	歩	三
									四
									五
							飛		六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	七
	角								八
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

第43回WFP作品展 B コース

担当：神無七郎

第43回WFP作品展Bコースは新規出題7題、39-12及び40-11の再出題2題の変則構成でした。解答者は3名。解答成績は以下の通りです。

〔第43回WFP作品展Bコース解答成績〕

○：正解　－：無解　（敬称略）

解答者名	1	2	3	4	5	6	7	39-12	40-11	計
たくぼん	○	○	○	○	○	○	○	－	－	7
変寝夢	－	－	○	○	○	○	－	－	－	4
橘圭伍	－	－	－	－	－	－	－	－	○	1

正直最初の2問はもっと解答が集まると思ったのですが、このところの神無太郎氏の作品は難解作が多かったので、避けられてしまったのかもしれませんが。

変寝夢氏の作品群もかなり難解で、危うく「作者以外解答なし」になるところでしたが、たくぼん氏のおかげでそれは免れました。たくぼん氏は難問の43B-7も正解されており、再出題の40-11を唯一解いた橘氏と共に今回の大殊勲だと思います。

なお、再出題の39-12は解答者ゼロ。これは超難解作なので致し方ない結果なのかもしれません。再々出題しても解答が集まる見込みはないので、今回は解答を発表したいと思います。

■ 43B-1 神無太郎氏作（正解1名）

安南協力自玉スタイルメイト 12手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
									歩	二
								王		三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 飛2 桂4

【ルール】

• 安南

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

• 協力自玉スタイルメイト

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト（王手は掛かっていないが合法手のない状態）にする。

【解答】

15 桂 12 玉 32 飛 11 玉 23 桂打 21 玉
31 桂打 32 玉 12 飛 21 玉 11 桂打 12 玉
まで 12 手

（最終形）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						桂		桂	一
								王	二
							桂		三
									四
								桂	五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【解説】

本局は桂4枚が盤上にすべて残るスタイルメイトです。

性能変化ルールでは、駒は性能変化が可能な位置にあれば、一時的に利きがない状態にあっても構いません。特に安南では、どこにどの駒があっても問題なく、事実上「行き所のない駒」は存在しません。とすれば、これを利用して通常では不可能な最終形を実現したいと思うのは作家として自然な発想でしょう。本局では「行き所のない駒」に見える桂を利用して、「桂の行き先を桂が止める」ように桂4枚の配置していく構想を、飛2枚を媒介にした趣向的な手順で実現しています。実はこの筋、既に40-8の紛れで既に登場しており、本作品展でも解説しています。WFP45号19ページに参考図としてその紛れ筋を紹介していますが、ここに再度掲載しましょう。この手順を覚えていれば、実質的に本局の解図は冒頭4手を読むだけで終了です。逆にこれを知らないと、3手目32飛のような一見ボンヤリした手を指すのは難しいでしょう。

初形は準裸玉、持駒も狙いの実現に必須な桂4枚以外はほぼ最小限と言える飛2枚の追加で済ませており、スタイリスト・神無太郎氏らしい無駄のない仕上がりです。

まずは俗手から考えましょう。スタイルメイトのセオリーに従って、飛香をすべて玉方に取りらせる方針で解くのです。まず一番に考えられるのは玉で取らせることですが…

29 飛 同玉 19 飛 38 玉 39 香 28 玉
29 香 39 玉 28 香 同玉 …？

と、これでは残りどう頑張っても 16 手になってしまいます。

では、俗手でダメなら妙手はどうでしょう？

前局で学習したように、安南は「行き所のない駒」の存在が許されます。これを利用すれば「開き王手で一段目に香を送り込む！」という手段が閃くかもしれません。

これは素晴らしいアイデアですが、調子に乗って香 4 枚すべて盤上に残そうとしてはいけません。もし出題図が下記のようなものなら、それもあり得ますが…

《43B-2 参考図》

安南協力自玉スタイルメイト 20手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
							金	香	八
		歩	歩	歩	歩			王	九

持駒 飛2 香4

29 飛 同玉 19 飛 38 玉 39 香 49 玉
31 香生 48 玉 49 香 59 玉 41 香生 58 玉
59 香 69 玉 51 香生 68 玉 69 香 79 玉
61 香生 19 金 まで 20 手

(最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			香	香	香	香			一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
		王						香	九

持駒 なし

形は綺麗ですが、どうやら香を全部生で一段目に送り込むのは手数が掛かり過ぎるようです。(ちなみに、この参考図では香が横に並んでいますが、縦に並べるのは難しいので、それを上手く作れたら画期的だと思います。)

俗手も妙手もダメならどうしようもない？

いえいえ、そんなことはありません。俗手と妙手を適度に組み合わせれば良いのです。

そのカギとなるのが 18 金。これが歩でない理由を考えると 29 香を金で取る筋が浮かぶはず。ただし、

29 飛 同玉 19 飛 38 玉 39 香 28 玉
29 香 同金 18 飛 39 玉 38 飛 同玉？

としてしまうと、香が 1 枚余ってしまいます。

8 手目で金が玉の性能になっていることに気付く…これが最後のポイントで、18 香を「同金」と安南らしく金が斜めに引いて、余分な香を取らせることに成功しました。この方式なら 2 手で 1 枚消せるので、とても効率が良いですね。

普通詰将棋でもそうですが、良問というのは妙手と俗手が適度に入り混じっているものです。本局も平凡な香消去と妙手の開き王手を適度に混合した手順となっています。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

9 段目に左から v 玉香飛で 1 段目の開き王手を狙いましたが、無理でした。

例えば 2 九飛、同玉、1 九飛、3 八玉、3 九香、4 九玉、3 一香生等なんですけどね・・・。まあそんなに簡単ではないか。

☆ 1 段目の開き王手に気付きながら無解は勿体ないですね。このコメントにあった筋は面白そうなので、解説の例図に使わせて戴きました。

たくぼんさん

いつ見ても 1 段目の香生には感心する。

29 飛～19 飛がうまい導入部。

☆ この導入部のせいで、ないだろうとは思いつつも 49 飛 29 金 18 飛 … の筋を読まされますからね。この辺りの構図の取り方、初形の配慮は私も見習わねばなりません。

■ 43B-3 変寝夢氏作（正解2名）

対面協力自玉スタイルメイト 12手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
							王	
								王

持駒 桂4

【解答】

15 桂 14 角 33 桂成 同玉 25 桂 同角
34 桂 同角 25 桂 24 飛 45 桂 同角
まで 12 手

(最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1
						王		
							飛	
					王			
								王

持駒 なし

【ルール】

- 対面 敵駒と向かい合ったとき、互いに利きが入り替わる。

【作者のコメント】

最終手の開きスタイルが面白い。

【解説】

ここからは、変寝夢氏による「対面協力自玉スタイルメイト・持駒桂4枚」の小特集です。

今回の特集では上記の条件の他に、

1. 桂がすべて捨てられる（盤上に残らない）
2. 発生する駒が飛角のみ
3. 攻方は桂の着手のみ

という手順面の統一がなされています。

ここからは推測になりますが、このシリーズは f m を使った絨毯爆撃的な探索に、作者の嗜好を加えて一工夫した手法が用いられているのではないのでしょうか。神無太郎氏が提唱されていた「都合の良い条件を先に設定し、それに合う図だけを探索する」手法です。この方が、単純な絨毯爆撃より効率的ですし、作家の意思も反映されて、より良い作品を生み出すことができます。

シリーズに統一的特徴のうち、筆者が特に注目したのが 3. です。対面ルールは持駒が桂だけの場合でも「桂打→対駒→桂打→移動→駒取り」の6手で、あっさり他の駒を入手できてしまいます。そうすると、対駒で入手した駒が主役になってしまい、桂が目立ちません。作者が「詰」ではなく「スタイルメイト」を選んだのも、スタイルメイトにより、駒取りを実質的に禁止して、桂が大活躍する作品を作りたいという意図の現われだと思います。

さて、シリーズ全体に関する考察はこれくらいにして、本局の解説に移りましょう。

本局は対駒で発生した角がジグザグに移動し、美しい軌跡に特徴があります。パッと見、「桂に飛対」の手順を早く実行したくなりますが、それをじっと我慢して角を好位置である 34 に移動させてから「桂に飛対」を行うのが巧い手順です。加えて、7 手目 34 桂も桂を歩のように使う印象的な手です。頭桂は対面で玉を詰めるときの定番手法ですが、この作品のように「歩の代用」に使うのは意外と珍しいと思います。

本局は「桂に角対から斜めに活用」「桂に飛対から横滑り」という対面で良く出る手順を中心に、桂を普通の桂として使う手や、玉頭を桂で叩く独特の手も織り込まれ、対面における桂使いの見本市のようです。

【短評】

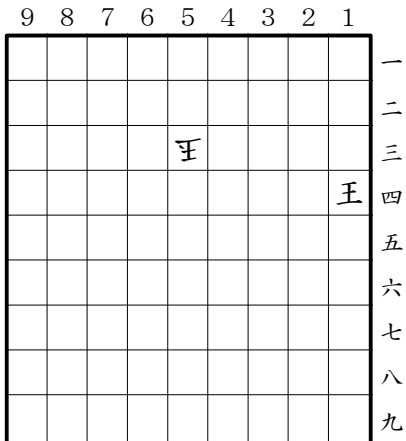
たくぼんさん

桂頭角～桂成、桂頭飛～桂移動がこのルールの基本手筋とこの作品で勉強しました。

☆ 確かに。この作品だけでも、対面における桂の使い方がよく分かると思います。ただ今回の変寝夢氏のシリーズでは、頭桂から玉跳ね、という対面の頻出手筋が出てきていません。桂を盤上に残したくないという、作者の方針があったのかもしれない。

■ 43B-4 変寝夢氏作（正解2名）

対面協力自玉スタイルメイト 12手

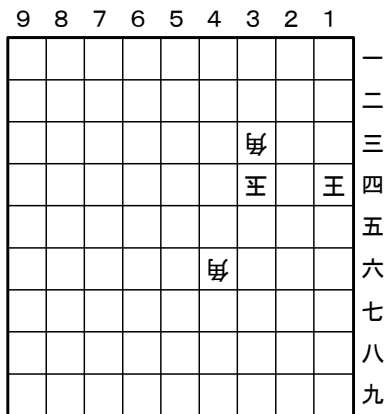


持駒 桂4

【解答】

65 桂 64 角 43 桂成 42 角 45 桂 43 玉
33 桂成 同角 34 桂 同玉 46 桂 同角
まで 12 手

(最終形)



持駒 なし

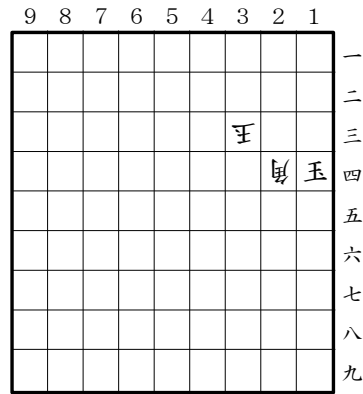
【解説】

今回の「対面協力自玉スタイルメイト・持駒桂4枚」の小特集で最初に作者から投稿されたのが、この作品。前局より難しそうだったので、出題順を1つ後に回しました。

前局で自玉が 19 というスタイルメイトになり易い位置にあったのに対し、本局では位置が 14 になっており、包囲網の形成は難しくなっています。中段で盤端の玉をスタイルメイトにするときは王の横に銀を貼り付けるのが一般的ですが、対面では角でも良いことに留意する必要があります。次の参考図を見てください。一見 25 に逃げられそうですが、25 王は玉に変身した 24 角から王手を喰らう自爆手になるのです。

《43B-4 参考図》

※対面ならこれでもスタイルメイト



持駒 なし

この形を知っていると、初手 45 桂～33 桂成と進める紛れに惑わされるかもしれません。が、実はこれは正解ではありません。

上記を本筋とすれば、本局の正解はいわば裏筋。角2枚で自玉の上下を押さえ、受方玉で横の空間を睨みます。まったくない形かと言えそうですがでもないのですが、自玉の周辺に何もなし最終形というのはなかなか初形からは想像できないでしょう。常識的な最終形を目指しているうちに偶然この形を見つける、というのが普通の解図過程ではないでしょうか。早々に2枚角を出現させる手順も盲点で、手数割に難しい作品だと思います。

【短評】

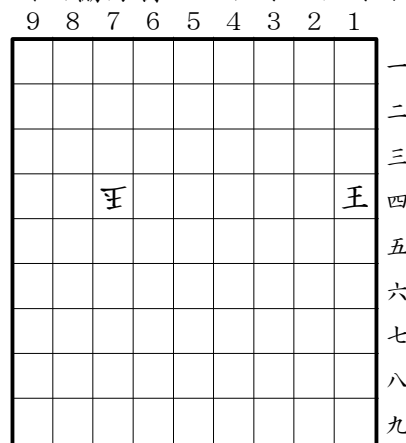
たくぼんさん

4 手目が難手。単に取りたくなる。

☆これはよく分かります。まずは玉を近付ける、それがスタイルメイトの常道ですから。

■ 43B-5 変寝夢氏作（正解2名）

対面協力自玉スタイルメイト 16手



持駒 桂4

【解答】

66 桂 63 玉 55 桂 52 玉 64 桂 63 角
 42 桂成 同玉 54 桂 同角 33 桂成 同玉
 25 桂 24 角 43 桂成 同角 まで 16 手

(最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
					馬	王			三
							馬	王	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

全体的にリズムカルだと思います。

【解説】

まるで無駄手に思える序が強烈な作品。

前局の解説で角を自玉の横に貼り付ける最終形を紹介しましたが、今度はそれを作品化することを考えましょう。もちろん持駒は桂で。すぐに思いつくのは次のような図です。

《43B-5 参考図 1》

対面協力自玉スタイルメイト 6手
 9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
						馬			三
								王	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂

これは完全作ではありません。「25 桂 24 角 43 桂成 同X まで 4 手」で終わってくれるとありがたいのですが、成桂を玉で取るとスタイルメイトでなくなってしまいます。かといって桂を取るためだけに何か駒を追加するのは野暮というものです。同Xとする駒も何とか対駒で発生させたいものです。

その方針で常識的に思いつくのは以下のような図でしょう。

《43B-5 参考図 2》

対面協力自玉スタイルメイト 8手
 9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
						馬			三
								王	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂2

55 桂 54 角 33 桂成 同玉 25 桂 24 角
 43 桂成 同角 まで 8 手

最後の桂成を取る角を対駒で発生させることができました。しかし副作用も生じています。25 地点が空いていることで、「対面」の効果を強調できるのがこの最終形のウリでした。ところが、43 圭を取るのが角なので 25 に角の利きが生じてしまい、対面でなくともスタイルメイトとなる形になってしまったのです。

従って、この路線ではたいした作はできない…と通常は別方向の作品化を模索することになるでしょう。

ところが、本局では最後の桂成を「同角」と取る路線で、上記のマイナスを補って余りある手順が実現されています。それが冒頭でも述べた序の 5 手です。通常この初形であれば、初手から桂打飛対と進めるのが最有力で、次に考えるのが 3 手目から桂打角対でしょう。手数が 16 手あるとはいえ、最初から桂 3 枚を盤上に並べてしまうとは予想外です。そして並べた 3 枚桂を次々と捨てて行きます。収束まで含めると 4 桂のうち 3 枚が角に変身し、打ち上げ花火のように散っていきます。

手順全体を見ると、緩やかな序から急激な連続捨駒という対比の妙が素晴らしく、単に難解なだけでなく、手順を並べて鑑賞するだけでも楽しめる作品ではないでしょうか。

【短評】

たくぼんさん

対駒を早めに出したくなる心理の裏をかく作品。5 手目が桂 2 枚残すだけに難しかった。

☆たくぼんさんは、その心理的抵抗感を打ち破ったの正解。本局の正解は価値が高いと思います。

■ 43B-6 変寝夢氏作 (正解 2 名)

対面協力自玉スタイルメイト 16手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

		王							一
								王	二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂4

【解答】

63 桂 61 玉 53 桂 52 角 51 桂成 同玉
62 桂成 61 飛 43 桂 同角 42 圭 同玉
54 桂 53 飛 34 桂 同角 まで 16 手

(最終形)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

			飛						一
				王		王			二
			飛						三
					馬				四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

4～12 手目のやりとりが気に入っている。

【解説】

22 王は最もスタイルメイトにしにくい位置です。もっと中央寄り、例えば 33 王であれば 1 段目・1 筋に駒を置いて、包囲網を作ることができますが、22 王では包囲駒を置く場所に困るのです (0 段目・0 筋に駒を置くわけにいきません)。目的が「詰」なら 22 王は頭桂一発で終わりですから、何とも皮肉な話です。

包囲しにくい 22 王を包囲するには飛や角という足の長い駒を使う必要があります。最も有力なのは 1 段目・3 段目に飛を発生させる形なので、まずはその線で読んでみましょう。

83 桂 62 玉 54 桂 53 飛 74 桂 51 玉
62 桂成 61 飛 …

飛 2 枚は発生させられましたが、この手順には 2 つ問題点があります。一つは、12 地点が空いたままであること、もう一つは 83 桂が盤上に残っていることです。後者は入り方の工夫で何とかかなりそうですが、前者は 12 に角筋を利かせるくらいしか対処法がありません。上の手順に対駒で角を発生させる手を加え、更に盤上に余分な桂が残らないような巧い方法があるでしょうか？

それを可能にする妙手が、初手から 63 桂、61 玉とする 2 手です。一見のんびりした手に見えますが、ここからわずか 6 手で角対・飛対を発生させ、盤上に桂も残さず、なお且つ玉を自玉に近付ける一石三鳥の手なのです。

その後は角を取らないための 43 桂や、桂に飛対の形では定番の桂の横滑りが登場。見事に包囲網が完成されます。作者は駒がどんどん活用されていく後半部の方がお気に入りのようですが、それも重い序があるからこそ一層映えるのでしょう。重い序から華麗な捌き、と言えば普通詰将棋の短編でも定番の構成ですが、フェアリーでは作家自身がルールに不慣れで、定番の展開に持ち込むことすらできない場合が多いので、もっともっと「型通り」とか「定番」の構成を持った作品を見たいと思います。

今回の変寝夢氏の小特集は、桂が「対駒稼ぎの道具」ではなく「主役」として盤上を飛び回る構成で、桂馬の大活躍を楽しめる作品群でした。個人的には 43B-5 の 3 桂連打から 3 桂捨てが一番好きです。欲を言えば、対面の効果が最終形に現れる作品も見なかったですが、これは今後の楽しみにとおきたいと思います。

【短評】

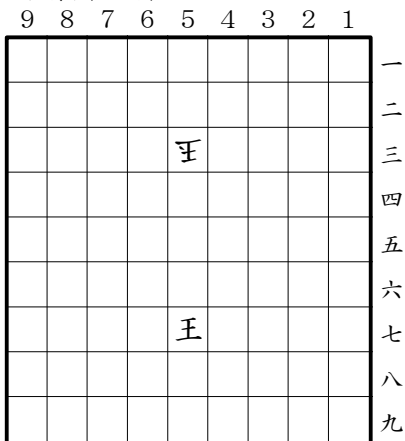
たくぼんさん

桂頭飛は王手になりやすいので段を考えないといけない。62 桂成、61 飛が巧手。

☆例えば 63 桂、62 飛、72 桂、63 玉(!)で、うっかり逆王手を喰らう筋ですね。変身ルールは本当に気が抜けません。

■ 43B-7 神無太郎氏作 (正解1名)

安南協力自玉スタイルメイト 22手

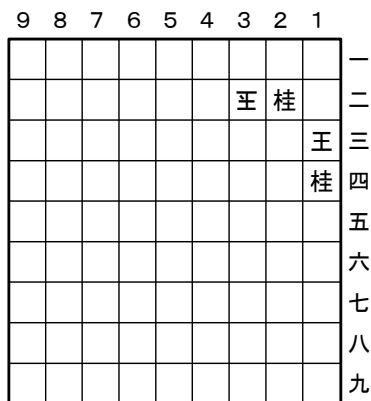


持駒 桂4

【解答】

45 桂 44 玉 46 王 33 玉 35 王 22 玉
 14 桂 32 玉 33 桂成 41 玉 34 桂 42 玉
 24 王 31 玉 32 桂 同玉 22 桂左生 21 玉
 13 王 31 玉 32 圭 同玉 まで 22 手

(最終形)



持駒 なし

【解説】

ここで再び安南の世界に戻ります。皆さん、対面が続いたので間違えていませんか？ 作者も神無太郎氏に代わっていますので、切り替えて行きましょう。

さて本局、変寝夢氏と示し合わせたかのような持駒桂4枚の双裸玉ですが、これはスタイルメイトで桂が使いにくいことの表れでしょう。詰将棋は使いにくい駒をどう使うかが見所ですからね。自玉が 57 に居るせいで、いきなり戦意喪失しそうですが、幸い手数は 22 手あるので、何とか自玉を上段に持ってくるだけの手数はありそうです。

まずは定跡通り、収束形から考えていきましょう。自玉の後ろに桂を打って桂の利きに変え、その跳び先は相手玉で抑えるのはまず妥当な線。では、その桂の行き先はどう塞ぎましょう？ 43B-1 を見ていれば答えは分かりますね。「行き所のない」桂で止めるのです。こうして攻方の「13 王 14 桂 22 桂」の形は論理的に求まります。このとき受方は 31 玉か 32 玉の形です。

でもどうやったら 22 桂を発生させられるのでしょうか？ これも論理的に求まります。「行き所のない駒」で直接王手を掛けるのは無理なので、「行き所のない駒」を発生させた時に間接的に王手が掛かる形を組み上げるのです。一例としては「受方 32 玉、攻方 33 成桂 34 桂」の形です。これなら 22 桂生と跳ねられます。

これで収束についてはほぼ絞り込めました。では次に自玉の移動ルート決定です。57 から 13 への最短ルートは 57→46→35→25→13。このうち、57→46→35 と 25→13 は容易です。前者は 45 桂を媒介にして、後者は 14 桂を利用して 21 玉に王手を掛ける形で実現すれば良いのです。しかし、35→25 の移動は一筋縄では行きません。最初に打った 45 桂を捨てて 25 桂に打ち替える？ そんな悠長なことをする余裕なんてありません (2 手不足)。

指定の手数以内に 35→25 の移動を可能にする妙手が、戦線から遠ざかるように見える 10 手目 41 玉。ここで 34 桂と王手したときに 42 玉と上がるのが、この手のメリットです。35 から 24 に自玉を移動するとき 34 桂を媒介にしたいけれども、22 を通過するルートを採用すると 34 桂と 14 桂がバッティングしてしまうので、両者が共存できる 42 を通過するルートを利用するわけです。11 手目 34 桂と指した局面は攻方の駒が三段重ねになっていて複雑ですが、このような多段性能変化が起こる局面は妙手の敏脈であり、安南の名作を数多く生んでいます。本局も「多段性能変化を利用した佳作」の系譜に名前を連ねる作品と言えるでしょう。

ところで本局の持駒が桂3枚だったらどうなるでしょうか？ この場合、手順にほとんど変化はなく、14 手目から「31 玉 32 桂 同玉」が「32 玉」に置き換わるだけです。たった1枚ですが、「桂3」という中途半端な枚数が「桂4」というキリの良い枚数になり、初形の見栄えが格段に良くなったように思えます。こうしたさりげない配慮が行き届いているのが、神無太郎氏の作品の特徴です。

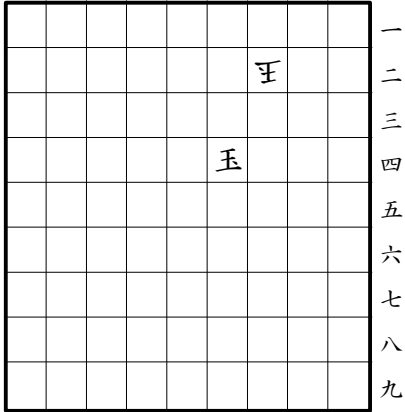
また、桂だけで自玉をステイルメイトにする本局を見ていて思い出した作があります。歩だけで自玉を詰める山田嘉則氏の作品です。

《参考図》

山田嘉則（詰将棋パラダイス 1990年5月）

安南ばか自殺詰 30手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 歩4

これはフェアリーの歴史に残る傑作です。WFP13号の「妖精賞の系譜(1)」の記事でも紹介されているので、ぜひご覧になってください。この作でも駒を三段重ねにする多段性能変化が効果的に用いられています。

【短評】

たくぼんさん

頭から解いていき行き詰ったので、想定詰上りからの逆算のドッキングで解図。

安南特有のやりにくい心理手が続く手順に悩まされました。

特に 33 桂成、41 玉からの数手は駒の利きの錯視もあって難解でした。

☆ 正直本局は「解答者なし」を覚悟していただいたので、この解答はありがたい限り。不調に悩まされながらも、根性で解答を下さったことに感謝したいと思います。



■ 39-12 一乗谷酔象氏作 (正解者なし)

推理将棋『アナグラムな対局』

助手「今度は私の先手番でいいですね。
では、お願いします」

・・・30手目後手の手番で・・・

博士「王手！」

3回目の王手だけど、これで詰みだね」

助手「負けました。

16手目に2枚目の駒を打たれたところではまだまだと思ったんですけど・・・

後手陣は手つかずで先手陣だけ終盤になってしまいました」

博士「最終手で詰まさずに後手陣だけ初形に戻す手もあるぐらいだからね」

助手「77地点にこだわって角の手と角成の手と馬の手を指した作戦が悪かったのでしょうか」

博士「77角と77角成と77馬は君だけでなく私も指した手だからね。それだけじゃないよ。棋譜をよく見てごらん。

先手と後手の各々の着手15手の棋譜は、順序の違いを除けば同一なんだよ。いわば、『アナグラムな対局』だったんだ」

さて、アナグラムな対局とはどのような将棋でしょうか？

二人の会話を元に推理してください。

条件

- 1) 30手目に3回目の王手で詰んだ
- 2) 先手と後手の各々の着手15手の棋譜が順序の違いを除き同一(注*)
- 3) (棋譜上)77角、77角成、77馬の手あり
- 4) 16手目は2回目の駒打ち
- 5) 30手目に別の手を指せば後手陣だけ初形に戻すことができた。(後手陣の1~3段目を初形配置20枚にできた)

注* 先後同一着手：棋譜が(表記上)同一であれば着手内容は問いません。

例)

- ・ ▲76歩△34歩▲77桂△同角成▲58玉△22馬▲同角成△77桂の場合、3手目と8手目、4手目と7手目はそれぞれ同一扱いです。
- ・ ▲56歩△54歩▲55歩△同歩の場合、3手目と4手目は同一になりません。

☆手数短縮型問題でもありますので、「先後同一着手」の 28 手以下の解は超正解として加点します。

【ルール】

• 推理将棋

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

• アナグラム

攻守双方が順番が異なる以外同じ手を指す。手の同一性は棋譜上の一致で判断する

【解答】

78 銀 34 歩 79 金 77 角成 68 飛 78 馬
 69 金 77 馬 78 金 同馬 22 角生 79 金
 77 角成 68 馬 同馬 78 銀 77 馬 35 歩
 68 馬 36 歩 78 馬 68 飛 36 歩 78 金
 35 歩 77 角 34 歩 22 角生 77 角 69 金
 まで 30 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	將	丞	王	丞	將	科	皇	一
	飛						馬		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
						歩			四
									五
									六
歩	歩	角	歩	歩	歩		歩	歩	七
			將						八
香	桂		丞	玉	金	銀	桂	香	九

攻方持駒 銀 歩
 受方持駒 歩

【作者のコメント】

本問は先手と後手の棋譜が同一な将棋を推理将棋としています。この形式のオリジナルはおもちゃ箱推理将棋担当の DD++さんが『先後同一着手局』として提案、出題されたものです。

DD++さん作の問題(36 手)は難しく、ヒントが出るまで全くわかりませんでした。拙作は別の構想で 30 手まで短縮できることに気づいたものです。これも難問らしく、mixi 出題しても解答者はゼロでした。この形式まだ発展途上ではないかと思えます。もし、「先後同一着手」の 28 手以下の解が発見されれば「超正解」です。

【解説】

ここからは解答者ゼロのため再出題となった一乗谷酔象氏の 2 作品です。

まずは『アナグラムな対局』と題された本局。先手後手が同じ手を指して詰むという、ちょっと聞いただけでは信じられないような作品です。仮に同じようなことを思い付いたとしても、普通なら「とても無理」と途中で諦めることでしょう。一乗谷氏のコメントによると既に DD++氏が同様の条件で 36 手の作を発表されていたのですが、36 手どころか、手数制限なしで出題されても解図は困難でしょう。

担当もこの「アナグラム」の設定でいくつか協力詰を作ってみたのですが（そのうち 3 つを WFP46 号で例題として出しました）、使用駒種を絞った創作だったにも関わらず、解図も作図も難しいものでした。本局のアナグラムは飛角金銀歩という 5 種の駒で構成されており、複雑さは段違いです。

まずは作意が本当にアナグラムになっていることを確かめましょう。

▲78銀	△34歩
▲79金	△77角成
▲68飛	△78馬
▲69金	△77馬
▲78金	△同馬
▲22角生	△79金
▲77角成	△68馬
▲同馬	△78銀
▲77馬	△35歩
▲68馬	△36歩
▲78馬	△68飛
▲36歩	△78金
▲35歩	△77角
▲34歩	△22角生
▲77角	△69金

上の図は作意を 1 行 2 手で表し、同一の手を同一の色で塗り分けたものです。このうち、10 手目と 15 手目の「同馬」は本当は別の場所(78 と 68)への着手なのですが、アナグラムは棋譜表記により手の同一性を判断するので、同じ着手として扱います。

アナグラムでは、何か指したら必ず相手もそれを指さねばいけません。従って、指し手は意外と制約が多くなります。例えばこんな感じです。

• 玉はなるべく動かさない

自玉が動いた時、相手玉も同じ箇所動かさねばならないが、それは困難。例外があるとすれば「同玉」くらい。

• 王手になる手はなるべく避ける

相手が指したとき王手になる手は自由度を極端に減らすので避ける。ただし自玉を詰めるため、そんな手も1手は必要。

• 小駒はなるべく「成」「生」としない

先手と後手では成る場所が異なるから。「同」の時は例外。大駒なら移動距離が大きいので場合によっては成っても良い。

• 異なる手の数をなるべく少なく

異なる手の数が手数半分の半分を超えたらだめ。越えなくても、増えるとだんだん帳尻合わせが難しくなる（本局の場合異なる手の数の最大は11）。

また、駒種ごとに駒の動かし方のパターンを覚えておくのも有効でしょう。例えば34歩を例にとると、

後手：34歩→（先手が以下の手を指す間に別の筋で歩を入手）→35歩→36歩

先手：36歩→35歩→34歩（後手の歩を取る）

これがある筋の歩を突く場合の基本パターンの一つになります。仮に歩だけのアナグラムなら、2つの筋の歩のやり取りだけで帳尻合わせができるわけですね。

一般論として、アナグラムで使う駒種は少ない方が望ましいのですが、あまり少なすぎても自由度が足りなくて困ります。本局で詰上りを先に考えると、8段目を飛で抑えて、金で詰める形が浮かびます。であれば、なるべく飛金歩だけのやりとりで済ませたいわけです。

でも実際にはそんなに簡単には事は運びません。本局の場合、最終手の69金を実現するためには、先手も69金と指さねばなりません。そのためには初形の69金を一旦別の場所に移動させてから69金を指す必要があります。しかし、78金から69金とはできませんから、どうしても79金を挟まねばならず、そうすると銀も動かさねばならず…と、どんどん使う駒種

が増えていきます。筆者も解説に当たって、48飛49金型のような別解がないか結構考えたのですが、やはり角を使わない筋は無理があるようです。

作意は実に巧妙に作られており、馬を活用することによって68飛をそこから動かすことなく消去しています。もし「手数短縮」が可能だとすれば、角を使わないか、角の動きをある程度削減する手順を見つけるしかないと思うのですが、果たしてそんなことは可能でしょうか？本局は手数短縮問題でもあるので、もし本局の30手より短い手順を発見されたら、ぜひご連絡ください。

また、本局は推理将棋として出題されているので、条件についても一応確認しておきましょう。条件1)2)はこの作品の基本部分。3)は角の動き方の限定（これがないと88角などでも良くなる）、4)は16・18手目の手順前後の防止、5)は22角を不成に限定するための条件と思われます（本当にこれで合っているか、実はあまり自信がありません）。

一乗谷氏はアナグラムの他にも棋譜表記法を利用した作品を発表されています。例えば42B-4『狭い所で長期戦』は「棋譜上の重複がない」という条件で最長手数を探す問題でした（この作品の修正案は本稿の末尾に掲載しています）。

将棋の棋譜法をパズルの題材に利用する分野は、一乗谷氏も仰るように「まだ発展途上」ですが、逆に言えば発展の余地も大きいはずです。『アナグラムな対局』は傑作ですが、それだけに「アナグラム＝難解」の図式が定着してしまいかねません。少し易しめで、新規参入の呼び水になるような作品の出現も期待したいと思います。

【短評】

たくぼんさん（※無解）

3筋の歩突き、68飛、69金の詰上りを目指すも達成できず。

解答を楽しみにしておきます。

☆本局唯一の挑戦者はたくぼんさん。コメントを見る限り基本方針は間違っていないね。それでも解けないのですから、本局の難解さが際立ったものであることが分かります。

よ、という問題。

作者は 37-7『指す手がないから仕方ない』(解答は WFP41 号参照)で 95 玉型の別解を、38-11『至高のスタイルメイト』(解答は WFP42 号参照)で 15 玉型という既存の解と大きく異なる解の存在を示してくれました。(38-11 改『王手 4 回のスタイルメイト』でも 15 玉型の別解を見せてくれています。解答は WFP46 号参照。)

そして今回は端玉でなくとも 29 手のスタイルメイトが可能だということを示してくれました。

本局を最初に出題した時は、ノーヒントだったので当然のように解答者ゼロ。85 玉型でスタイルメイトになるとは誰も思えなかったでしょう。

手順を見てください。細かい違いは多々ありますが、37-7『指す手がないから仕方ない』と もっとも大きな違いは飛の動きです。37-7 では後手の飛は馬に取られる位置に移動するため、82→84→74 という動きをしています。一方、本局では飛を 82→92→97 と移動しています。考えてみれば、82→84→74 と移動するのも、82→92→97 と移動するのも同じ 2 手なのです。から、先手の飛を活用するか、香を活用するかの違いだけで、手数 の 損得は ありません。問題は、玉の包囲網を形成できるかどうかですが、初手に突いた 76 歩などを活用することで見事にスタイルメイトを達成しています。

38-11 で示された 15 玉型解の発見だけでも秀逸な成果ですが、今回はその更に上を行っています。本局は、優れた成果にも満足せず、更にその上を目指す一乗谷氏の探求精神が形になった作品の一つと言えそうです。

【短評】

橘圭伍さん

忘れない間に解答を送っておきます

早々に香の頭に駒を打って桂・駒・香でスタイルメイトする形自体には気付いていたんですが他の条件が全部満たせないと思っており放棄してました

とりあえず、29 手になる解答を探そうと思って目指したら 97 飛～歩打ちに気付いてこの手順前後の形に辿り着けました

歩を 1 筋方面に打って角を 82 に打つ形を見つけて無事全条件を満たせましたが、条件を同時に満たす手があって若干すっきりしなかったというのが本音です

初形からのスタイルメイトは基本的に最終形を知らないと手も足も出ないかと。今回は、ヒントがあったので比較的容易に解けましたがヒントがなければまず解けなかったと思います

☆ 本局唯一の正解は橘氏。お見事です。

条件を同時に満たす手があることを気にされていましたが、これは 14 手目 97 飛や 20 手目 12 歩のことでしょうか。条件の付け方は作者の好みが出るところで、条件の少なさを重視するか、多少重複しても条件の美しさを重視するか違いは出そうですね。

本局は最短のスタイルメイトを求めるのが主眼なので、そもそも推理将棋という出題形式が最善の表現かどうかという問題もありそうです。

たくぼんさん (※無解)

こちらは時間が取れず。申し訳なし。

☆ たくぼんさんは前問で時間切れでしたか…

39-12 の方が (おそらく) 難度が高いので、そちらを後に出題すべきだったかもしれません。

【総評】

変寝夢さん

本来先手の駒数×2 が手数を超えた場合は解答しやすいはずなのに・・・。

☆ その種の作品には大抵何らかの「仕掛け」がありますが、今回の作品は配置が簡素で、「仕掛け」が見えにくかったのだと思います。

たくぼんさん

体調すぐれず解図時間が取れず不本意な解答で申し訳ありません。

☆ いえいえ、7 問も解答を送って戴いた (うち 3 問は唯一の正解) ので充分です。体にはお気を付けて無理をせずに解図をお楽しみください。

☆ さて、今回の解答募集分は以上ですが、問題だけ示して、解答を募集していなかった作品があります。一乗谷氏の『狭い所で長期戦』の修正案です。以下に問題を再掲し、解答を発売したいと思います。

推理将棋『狭い所で長期戦』

「昨日、奇妙な将棋を見たよ。金の手を指した2手目以降の着手は四カ所だけ、それも縦2マス横2マス、ある2×2の範囲内だけだった」

「へえ、それは珍しい。そんな狭い所だと、すぐに決着がついたんだろうね」

「いや、狭い所でも激しい攻防が長く続いていたよ。駒を打った場所は1カ所だけだったのね。たしか71手目に駒を打って詰みだった」

「そりゃすごい。でも、同じ手順を繰り返す千日手模様じゃなかったかい？」

「そういえば、後手は2手目から同じ駒を3回連続動かしていたし、それと同じ手順を40手目からと50手目からも指していたね。でも、先手の着手の棋譜はダブっていなかったし、同一局面もなかったよ」

条件：

- 1) 71手目に駒を打って詰んだ
- 2) 2手目以降はある2×2の範囲内の四カ所の着手のみ
- 3) 駒を打った場所は1カ所だけ
- 4) 先手の着手に(棋譜表記上)重複なく、同一局面もなし
- 5) 後手は2手目から同じ駒を3回連続動かした。
- 6) 後手は、2,4,6手目と(棋譜上)同じ手順を40,42,44手目にも指し、更に50,52,54手目にも指した。

【解答】

76歩 32金 33角成 42金 43馬 33金
 同馬 42銀 43金 33銀 32金 42銀
 33金 43角 同金 33銀 42金 同銀
 43角 33銀 32角生 42飛 43角生 32飛
 同角生 42銀 43角成 33銀 32馬 42銀
 33馬 43金 42馬 同金 43銀 33金
 32銀生 43角 同銀成 32金 33成銀 42金
 43成銀 33金 32成銀 43金 42成銀 同金
 43飛 32金 33飛生 42金 32飛生 33金
 42飛生 32金 43飛生 33桂 同飛生 43金
 32飛成 42金 43龍 33金 32龍 43銀
 33龍 32銀 同龍 33角 43桂 まで 71手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	季	王				皇	一
						龍			二
歩	歩	歩	歩	歩	桂	馬	歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

攻方持駒角金銀歩2

受方持駒なし

【作者のコメント】

余詰順を元に最長手数探索の観点で検討しましたところ、更に手数延長が可能であることがわかりました。先に金を消すと先手が指す駒毎の手数は、最多で次のようになります。

- ・ 歩：1手、
- ・ 桂：1手
- ・ 銀：3手(43銀,32銀生,同銀成)
- ・ 成銀：4手(32成銀,33成銀,42成銀,43成銀)
- ・ 金：5手(32金,33金,42金,43金,同金)
- ・ 角：6手(43角,32角生,43角生,同角生,33角成,43角成)
- ・ 馬：5手(32馬,33馬,42馬,43馬,同馬)
- ・ 飛：7手(43飛,32飛生,33飛生,42飛生,43飛生,同飛生,32飛成)
- ・ 龍：4手(32龍,33龍,43龍,同龍)

と、ほぼ限界に近いと思われ、先手着手 36回で71手となります。

銀のみ少ない(43銀生,同銀生,同成銀の余地あるかも?)

… 中略 …

(補足)

- ・ 71手の修正条件では金の動き(32-42-33)と手順を縛って、限定しています。
- ・ 最も非限定が起こりやすいのは、飛車と龍の回転部分です。
- ・ 50~54手目の金は、生飛車の回転の向きを限定させ回転途中の同一局面を回避しています。

【解説】

前回『解答募集は行いませんが、作意手順は次回の結果稿で掲載致しますので、我と思わん方は次号発行までの時間を利用して、解図にチャレンジしてみてください』としたものです。皆さん、いかがだったでしょうか？

この修正案では金、角&馬、飛&龍の動く回数が理論上の上限値（それぞれ 5、11、11）に達しており、改善の余地を残しているのが銀&全だけ（上限より 4 少ない）となっています。

果たして他の駒の動きを減らさずに銀の動く回数を増やせるか、あるいは他の駒の動きを少し減らしても、減らした分を補うほど銀の動く回数を増やせるか。読者諸氏の検証と挑戦をお待ちしたいと思います。

以上

「第 37 回神無一族の氾濫」投稿作品募集

「第 37 回神無一族の氾濫」（詰パラ 12 月号掲載予定）へのゲスト参加を募ります。

今回は「利きのない駒を使う作品」を募集します。普通詰将棋では盤上に利きのない駒は存在してはいけませんが、フェアリーでは必ずしもそうではありません。対面のように利きがなくても性能変化で動ける位置なら良いものや、マドラシのように利きが消える状況があるもの、あるいは明示的に利きのない駒を使用する場合があります。

利きのない駒が初形あるいは手順中のどこかで存在するフェアリー作品を送ってください。

作品要件	利きのない駒を使う作品
募集締切	2012 年 10 月 14 日（日）
募集作品数	4（+α）
送り先	神無七郎(janacek789@ybb.ne.jp) 上記宛先へ E-mail でお送りください。
備考	1 人何作でも投稿可 採否は 10 月 21 日までに通知



【追記】

（50 号発行後、橋氏より七郎氏にコメントが届きましたのでここに追記します。）

アナグラムに関して感想コメントを出しておきます

忙しくて数時間程しか考える時間はなかったのですが条件から次の事迄は推測できてました

・後手が先に 34 歩～36 歩をした後に先手が 34 歩迄突き越す

・詰上りは 68 飛型で 78→69 と金を刷り込む手順

・色々弄った結果、先手 78 馬または 79 馬・後手 77 馬 68 飛型にして 68 馬同馬という形で飛をとる手順があると推測される

で、最終形で 22 に角がある形で先手の手順が限定される事から最初は○34 歩○77 角 68 飛という手順

なので、先手は 78 銀または 68 金から開始。前者でも後者でも序盤の展開は一定なのでゆっくり絞り始めた所で時間切れでした

22 角を打つ事ばかり考えていたので 22 角生に気付く事が出来たかは分からないですがその上での感想です

77 関係の条件が厳しいので本作を解くのはその気になればそれ程難しくはないと思います
アナグラムという条件は同○という手順の自由度が高いように見えて実はそれ程高くないので考える上では考えやすい部類でした

本作品は、条件のバランスと難度が丁度よい感じになっている作品じゃないかなという印象です

今回は、解き始めたのが 10 日位で其処から忙しくて殆ど考える時間はなかったですが上記位までは絞り込めています。

正解者 0 というのは長編推理将棋自体の解答挑戦者自体が多くても 3 人(作者除く)程度しかいないのが原因ではないかと思われそうです

今後は少しずつ時間が取れると思われるので出題があれば解いていきたいと思っています。

2012 年 8 月 21 日 橋 圭伍

Fairy of the Forest #32結果発表

- 2012年05月20日：課題発表：(協力詰)
合利かずの詰上り (両王手を除く)
- 2012年07月15日：投稿締切
- 2012年07月20日：出題
- 2012年08月15日：解答締切
- 2012年08月20日：結果発表

- 結果発表

【今回の解答者】

(敬称略、到着順、○は全題正解者)

○神無七郎、変寝夢、○中山省吾、
隅の老人B、○たくぼん

☆中山省吾さんが初解答。うれしい限りです。
今回は04が問題作で、後述するように全員正解としました。

■ 32-01 神無太郎 協力詰7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
					角	飛	金	金	三
				角	金	金	飛	銀	四
									五
									六
									七
									八
				王					九

持駒 なし

37角 48銀 77角 68銀 54飛 58銀
29飛 まで7手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				飛			金	金	三
					金	金		銀	四
									五
									六
		角				角			七
			銀	銀	銀				八
				王				飛	九

持駒 なし

変寝夢—この作で課題の意味がわかりました。

隅の老人B—「合利かずの詰上がり」というよりは、「合駒をする駒がない」というべき、かな。

☆「行き所のない駒の禁」または「二歩禁」を利用することになりますね。

中山—合利かずのヒントがなければ、解けなかった。

たくぼん—合利かずの入門編。銀が3枚並ぶ姿が美しい。

七郎—品切れ狙いを簡潔に。金だと簡単に余詰むので銀の品切れ狙いなんですね。

☆最下段での合駒物は、創作初期からの作者の得意分野です。これくらいはお手の物、というところでしょうか。

■ 32-02 神無太郎 協力詰9手 (駒余り詰)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
						金	銀	銀	七
						歩	銀	銀	八
							王		九

持駒 飛

99飛 89銀 同飛 79銀 同飛 69銀
同飛 59銀 同飛 まで9手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
						金	銀	銀	七
						歩	銀	銀	八
				飛		王			九

持駒 銀4

作者—こういうのはどうか？

☆解としては唯一なので、駒余りを注記すればよいだろうということで、出題しました。

中山—これは、暗算でいけました。

隅の老人B—4銀連合捨て。恐れ入谷の鬼子母神、作者に脱帽。

七郎—この筋なら金の品切れも狙えたかも。手余り可の設定なら、従来協力自玉詰などで実現されていた構想を協力詰で実現できるかもしれません。

☆金だと余詰防止が厄介なのかな？ 単に前局に合わせただけかも知れませんが。

変寝夢—柔軟な考え方（駒余りを是とされているところ）が参考になります。

☆ただし、否定的な感想も……。

たくぼん—これは何とっていいのかわか。何か深い意味合いでもあるのだろうか？

☆お遊びとして、軽く受け取って構わないのでは？ 簡単に、限定打+限定4連合が成立したということ。

■ 32-03 北村太路 協力詰 15手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	銀	銀	銀	金	金	金	金	角	角	
二	銀	香	香	歩	歩	歩	歩	歩	飛	
三	桂	香							歩	
四	桂	香								
五	桂									
六	桂								王	
七						龍				
八									入	
九										

持駒なし

27 龍 15 玉 17 龍 16 歩 26 龍 14 玉
 23 龍 15 玉 14 龍 26 玉 24 龍 25 歩
 35 龍 17 玉 37 龍 まで 15 手

(詰上り図)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	銀	銀	銀	金	金	金	金	角	角	
二	銀	香	香	歩	歩	歩	歩	歩	飛	
三	桂	香							歩	
四	桂	香								
五	桂							歩		
六	桂							歩		
七						龍		王		
八								入		
九										

持駒なし

作者—あまり出来がいいと思えませんが2作送ります。

☆気乗りしない課題だった模様ですが、投稿していただき、感謝します。

中山—詰め上がり、19玉だと決めてかかったのが失敗。17玉とわかれば、すらすら。

☆「行き所のない駒の禁」ではなく「二歩禁」のほうでした。変寝夢さんは最終3手が75歩、73玉、53龍迄の解答でしたが、これは錯覚でしょう。63歩合ができますよ。

隅の老人B—合駒は歩だけ、それにしても花駒が多いこと。2歩禁、上手く出来ています。

☆花駒多数は、課題の性質上やむを得ないでしょう。置きたくなければ、受方持駒を制限することになりますが……。

たくぼん—取禁協力詰のような手触り。

☆歩合を取らずに龍が迂回する所に、そういう感じがありますね。25歩合は二歩禁のためですが、16歩合は退路封鎖になっています。

七郎—この形は経験上、意外と早く詰むことは知っていました。でも、最初は逆形(14玉)での詰上りを想定して、2手オーバーでした。

☆多くの詰形を知っておくことは、創作や解答に役立つものですね。

■ 32-04 神無太郎 協力詰 15手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
			金	金	銀				六
			金	金				王	七
			香	香	香	王			八
			香	香	香			飛	九

持駒 なし

「18 飛 39 玉 19 飛 38 玉」×3
18 飛 39 玉 19 飛 まで 15手

(詰上り? 図: 38 玉は禁手?)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
			金	金	銀				六
			金	金				王	七
			香	香	香				八
			香	香	香	王		飛	九

持駒 なし

作者—こういうのはどうか。

変寝夢 (初回解答時) —歩と香の差違が出る手順を探したのですが……。

中山—解けませんでした。どうしても手詰まる。詰め上がりもわからず。解答が楽しみです。

隅の老人B—初手は 39 飛 or 18 飛? たぶん 18 飛だろうな、それから先が解らない。

たくぼん—頭が固いのかさっぱり作者の狙いが分かりません。千日手がらみ?

☆ある程度予想していたことですが、無解ばかりでした。本題については、七郎氏との間でメールのやりとりがあったので、まずそれを抜粋します。

七> Fairy of the Forest #32 ですが、32-04 が

全然詰まないように思います。出題図は正しいのでしょうか?

酒>正しいです。作者が「掟破り 2 作」と言っていたのですが、1 題は 02 の駒余り詰、もう 1 題がこの 04 です。

七>そうでしたか。あまり真面目に考える気がないので、「不詰」で解答を出します。

(普通に考えれば不詰ということは、不詰でも正解になりますよね?)

酒>遠回しでもいいから、やはり注を付けておくべきだったかも知れません。今さら注記するのも手遅れ感があるので、このままで解者の反応を見たいと思います。

☆ヒントになるのを危惧して、出題時に注記しなかったのですが、やはり失敗でした。出題ミスとも言えるので、全員正解とさせていただきます。作意解を答えられたのは、変寝夢さんのみ。ただし、これも私のヒント (ちょっと「最後の審判」的) を受けてからのことでした。

変寝夢 (追加解答時) —返信メールを頂いて漸く理解できました。できれば出題時コメントが欲しかったです。作品的には、現在の同一局面 4 回は連続王手付きで習った私には条件的に緩い様な気がしますし、今はばか千日手というジャンルがありますので、存在意義という意味で首を捻らざるを得ません。かしこ詰においては、同一局面 (手番も含む) が出てきた時点で不詰だと思っています。そういう意味で最後の審判は完全否定派です。

☆たくぼんさんの推測は、いいセン行っていたわけです。なお、「最後の審判」は縫田光司氏の有名な問題作です。

■ 32-05 北村太路 協力詰 29手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								馬	と	一
									と	二
								香		三
								香	と	四
金	金	香								五
飛	香							香	と	六
飛	金		銀	香	香	銀			と	七
銀		桂	香	香	香	香			と	八
角	銀	王				と	と	と	と	九

持駒 桂3

七郎一序の入り方に迷いました。98角が働いてきて、さあこれから……と思ったら突然終了。少しあっけない感じです。

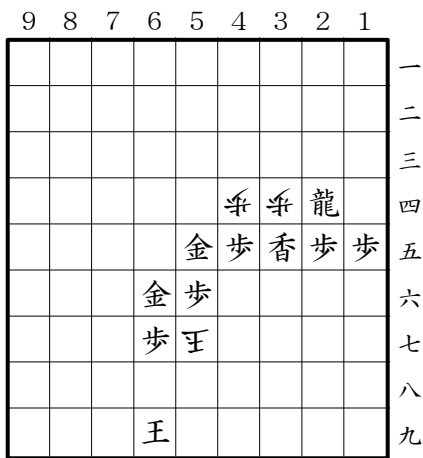
☆作者の腕を以てしても、さらなる展開は無理だったのでしょうか。

中山-79桂を取らせる筋を思いつかず、大苦戦。

変寝夢-下段での飛と角の使い方が分かりませんでした。(無解)

☆残念でした。作意手順をご堪能ください。

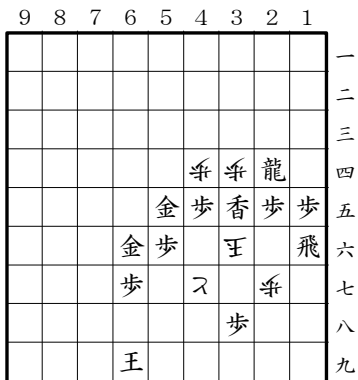
■ 32-07 神無七郎 協力詰 63手(受方持駒=歩 11)



持駒 飛

- 17 飛 27 歩 同飛 48 玉 47 飛 39 玉
- 49 飛 28 玉 29 飛 17 玉 19 飛 18 歩
- 同飛 27 玉 17 飛 36 玉 16 飛 26 歩
- 37 歩 同玉 17 飛 27 歩成 38 歩 36 玉
- 37 歩 同と 16 飛 27 玉 17 飛 38 玉
- 18 飛 28 歩 同飛 47 玉 48 飛 57 玉
- 58 飛 47 玉 57 飛 38 玉 58 飛 48 と
- 39 歩 37 玉 57 飛 47 と 38 歩 同玉
- 58 飛 27 玉 28 飛 16 玉 18 飛 17 歩
- 同飛 26 玉 16 飛 37 玉 17 飛 27 歩
- 38 歩 36 玉 16 飛 まで 63 手

(詰上り図)



持駒 なし

作者-当初は 24 に置いた歩を運ぶ筋を狙ったのですが、思うように仕上がらなかったのが、初手に飛の限定打が入る本図で妥協しました。受方持駒の歩は3枚以上なら何枚でも良いのですが、詰上り「合利かず」を強調するために、余分に歩を持たせています。

変寝夢-結果稿が楽しみです。(無解)

隅の老人B-残念、無念。どうしても詰上がり図を推定できない。七郎さんにまた負けた、解答の発表が楽しみです。(無解)

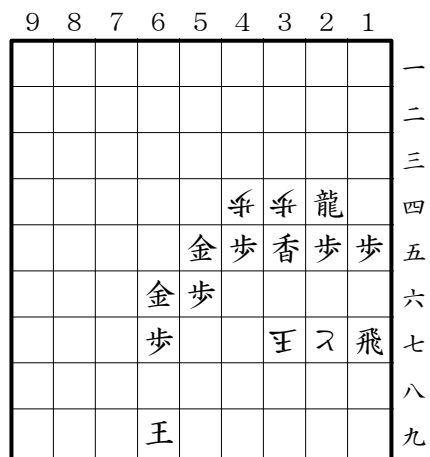
☆今回随一の長編は、毎度おなじみ七郎作。この手数に仕上げてくるとは、感嘆のほかありません。

中山-詰め上がり形が意外と少ない。この手順が、限定ならば驚き。

たくぼん-詰上りはこれしかないと思うが、初手 59 飛では 65 手にしかならず悩みました。17 飛以下の手順が限定とは凄いです。

☆受方持駒が歩しかないので、二歩禁利用は予測できますが、これで限定できているのは素晴らしい。途中図を掲げておきますので、構成の妙を味わってください。

(途中図 1 : 22 手目 27 歩成=受方と金発生)



持駒 歩

(途中図2 : 46手目 47と=と金を壁に)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
						歩	歩	龍	四
				金	歩	香	歩	歩	五
			金	歩					六
			歩	飛	入	王			七
									八
			王			歩			九

持駒なし

(途中図3 : 60手目 27歩=二歩禁のカギ)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
						歩	歩	龍	四
				金	歩	香	歩	歩	五
			金	歩					六
			歩		入	王	歩	飛	七
									八
			王						九

持駒歩

☆特にと金を移動させる手順が見所です。

【総評】

七郎ー今回の課題は掘り下げる余地がないので、自作では添え物程度の位置付けです。

課題を中心に据えようとしたら、変則的な手段に打って出ざるを得ないでしょう。神無太郎氏の「掟破り」がどんなものか、種明かしを楽しみにしています。

☆07 が添え物レベル？ 04 太郎作は拍子抜けだったかも。

変寝夢ー苦しい課題の中、いろんなものがあって面白かったです。

☆作者の皆さんに感謝あるのみです。

中山ー一問、解けませんでした。とても面白い問題ばかりで、出題者には頭が下がります。

☆1問は04だったので、全題正解です。初解答でこの結果はお見事！

隅の老人Bー連日の暑さの中、全題正解を目指して頑張ったが、2題が解けず。15日の締切日、諦めて、お盆の墓参りに行こう、です。

☆Bさんが無解ありとは珍しい。リベンジに期待します。

たくぼんーこういう課題が作家の創作意欲を掻き立てるとあれば、この路線が面白いかもしれません。

☆この路線とは？ 無理難題？

Fairy of the Forest #33 課題発表

- 2012年08月20日：課題発表：(協力詰) 盤面駒に一色ふくむ
- 2012年10月15日：投稿締切
- 2012年10月20日：出題
- 2012年11月15日：解答締切
- 2012年11月20日：結果発表

前回の課題があまり発展性のないものだったのを反省し、今回は漠然とした課題とします。「盤面駒に一色ふくむ」とはちょっと分かりにくいですが、【参考図】(協力詰7手、森茂氏2006年年頭戯作)をご覧ください。

【参考図】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
龍									三
	歩	歩	歩	歩					四
									五
									六
	銀		王						七
飛				歩					八
									九

持駒なし

盤面に金4枚(一色)が使用されています。この図では受方のみですが、一色使用であれば攻方受方を問わないものとします(攻方のみ一色でもいいし、攻方+受方で一色でも可)。また二色以上でも可とします。

【参考図】は森氏の享年の賀状に添えられていたもの。その年の8月19日に亡くられています。この課題が発表される頃は、6回目の忌日ということになります。合掌。

(投稿先)

→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

JIGSAW BOX #07 解答発表

☆今回は作家も解答者も2名ずつという結果でしたが、ともかくどの作品にも作者以外からの正解者が出たのは幸いでした。どうも有り難うございます。

07-01 神無七郎 (正解2名)

最悪詰 33手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							香	玉	一
									二
						飛			三
									四
									五
								王	六
							歩		七
									八
			金				香		九

持駒 なし

37飛生 27銀 同飛 18玉 17飛 同玉
 18銀 26玉 27銀 35玉 36銀 46玉
 35銀 45玉 46銀 36玉 37銀 同玉
 48金 26玉 37金 15玉 26金 同玉
 27歩 25玉 26歩 24玉 25歩 23玉
 24歩 12玉 23歩成 まで 33手

・変化

ア) 初手37飛成は、27桂 26龍 同玉 27歩 35玉 47桂 25玉以下早詰

イ) 5手目19銀は、同玉 17飛 18歩 同飛 同玉 19歩 17玉 18歩 26玉以下早詰

(1筋は歩合ができるので、その筋に入ると容易に詰む)

ウ) 17手目45銀は26玉以下2手早く詰む
 (26玉 27歩 25玉 26歩 24玉 25歩 23玉 34銀 13玉 23銀成 同玉 24歩 12玉 23歩成 まで)

・紛れ

A) 2手目27銀で香合は、同飛 18玉 17飛 同玉 18香(直打ち)で不詰

B) 14手目47玉は、58金でも48金でも2手余分に掛かる

(例えば58金なら、36玉 47金 25玉 34銀 16玉 25銀 同玉 36金 16玉 26金 同玉 27歩 25玉 26歩 24玉 25歩 23玉 24歩 12玉 23歩

成 まで。

銀の動きが減る以上に金が余分に動くことになる。)

☆初心者向けに一言。最悪詰は普通の詰将棋と逆で、攻方がなるべく詰まないように王手し、受方が自ら詰むように応じるルールなので、「変化」「紛れ」の用語法も普通ルールとは逆になります。「変化」は攻方の選択肢、「紛れ」が受方の選択肢の事です。

作者一筋の歩を突く展開になると詰みまで一直線。これを避けたい攻方と、この筋に持ち込みたい受方の駆け引きにより生じる空中の銀追いが一応の狙い。ちょっと地味な手順ですが…。

☆下の図(「仮想図」と呼ぶことにします)のような局面になると、攻方は香頭の歩を突いていくしか手段がないため、いきなり詰み筋に入ります。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							香	玉	一
									二
									三
									四
									五
							王		六
									七
							歩		八
							香		九

持駒 なし

☆例えば初手から13飛成とすると、以下16歩、同龍、同玉、17歩、26玉となった局面が仮想とほぼ同じなので早詰になるという仕掛け。中山省吾一2手目は銀合か、角合か、香合か迷いました。銀を手にしてからは、2六を巡る微妙な攻防がとても面白かったです。

☆攻方は銀を手駒にして一見選択肢が広そうに見えるのですが、5手目19銀は変化イ)の通りですし、7手目26銀は同玉で仮想図に直行するなど、実は意外と王手の仕方が難しい。37で銀を取らせ、59金を活用することによって手数を稼ぐのが攻方の最強の抵抗手段なのですが、それも結局斜めに上がっていった金が26で取られてしまい、24手で仮想図が実現してしまいます。

☆七郎さんご自身が仰る通り「地味」な展開ではありますが、第2番がかなりの難解作だっ

たので、バランスは悪くなかったのでは。
 ☆ところで最悪詰といえ、初期の作品は攻方の着手がほぼ一本道で、事実上協力詰と余り変わらない感覚でした（いわば攻方の選択肢を量的に制御していた時代）。普通ルールに例えると、攻方妙手型で、受け手は淡白な入門者向け詰将棋という感じでしょうか。

☆それが2000～01年にかけて森茂さんが、受方の紛れだけでなく攻方の変化も読ませるタイプの作品を先駆的に発表。更に2007年の森さんを追悼する作品展（<http://www.geocities.jp/cavesfairy/morishige/morishige-a.htm>）で最悪詰作品が4題出題されたのを契機に、攻方の選択肢が量的には多くても受方が局面をコントロールしてしまう技術が多数発掘されました。つまり現在は攻方の選択肢を質的に制御する時代になっています。

☆もしかすると、最悪詰は他のフェアリールール以上に、普通の詰将棋で合駒物などの作品を創り慣れている作家さんが実力を発揮し易い分野かも知れません。実際に真Tさんが離れ技を多数披露したケースがあります。おそらくはまだ面白い手筋がかなり眠っているルールですので、興味を持たれた方は是非！

07-02 神無太郎 （正解1名）

PWC成禁打歩協力詰 47手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
								香	三
							香		四
						香	香		五
								王	六
									七
									八
									九

持駒 香

19香 18香 同香 27玉 29香 28香
 同香 37玉 39香 38香 同香 46玉
 49香 48歩 同香 47桂 同香 35玉
 27桂 同金右/36桂 44桂 37桂 同香 36金
 同香/37金 26玉 27香/28金 同玉/26香
 39桂 18玉/27香 19歩 17玉 18歩 16玉

17歩 15玉 16歩 14玉 15歩 24玉
 25香/26歩 同玉/24香 26香/27歩
 15玉/25歩 27桂 14玉 15歩 まで 47手

☆「打歩詰」なので歩を入手しなければいけません、「どこで・どうやって」が大問題。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
								香	三
					桂		香		四
							歩	王	五
							香	香	六
					香	香	香		七
							香		八
								桂	九

持駒 なし

第44手目 15玉/25歩

☆結果論で書くと、本局が目的とする局面は上図です（以下「目標図」）。39の桂で27歩を取れば、「行き所のない駒」を利用して歩を入手できますね。以下14玉、15歩まで。解図の際の問題は、この展開が最短コースだと気付くかどうか（まずもってこれが難しい）と、どうやってこの局面を実現するかです。

☆まずは駒を補給するよりないので、初手から香打～香合を繰り返した後、4筋で歩と桂を持駒にします。以下35玉、27桂、同金右/36桂として20手目の局面。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
								香	三
							王	香	四
						桂	香		五
							香	香	六
						香		香	七
							香	香	八
									九

持駒 歩

第20手目 同金右/36桂

☆ここが第1の岐路で、44桂とソッポに跳ねるのが正解。24に行ってしまうと、その後手数が進んで44手目の局面を迎えた時に、前掲の目標図と比べて44桂→14桂になってしまっていて、27桂、14玉/15桂で桂が邪魔になり、肝心の歩を打つスペースがありません！

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
								香	三
					桂				四
							香		五
						香	香		六
					香	王	王		七
							香		八
								香	九

持駒 桂歩

第28手目 同玉/26香

☆さて21手目44桂の後の方針ですが、37で桂をもう1枚補充してから、27に玉を連れて来て39に桂を据えるのが急所です。「目標図」で見たように、この桂が27に跳ねて歩を入手する展開になります。尚、桂を19に打ってしまうと、18玉/27香に19歩が出来ません。

☆ただ歩を入手する手段としては「二歩禁」を利用する構想も有力で、唯一正解者となった七郎さんもそこで悩まれたようです。

神無七郎—合駒で入るのは桂ばかり、その桂馬も跳ねると役立たずに…。それでも桂は欲しいので、26手目24玉とする紛れから二歩禁を利用する筋を中心に読み、かなり苦戦しました。「二歩禁」ではなく「行き所のない駒」を利用するのは、分かってみれば結構シンプルな筋ですね。邪魔にならないようソッポに跳ねる44桂も地味ながら好手です。参考までに私の嵌った紛れを紹介します。6手も作意より長いですが、これを見つけるのでさえ苦労しました。

- 19香 18香 同香 27玉 29香 28香 同香
- 37玉 39香 38香 同香 46玉 49香 48歩
- 同香 47桂 同香 35玉 27桂 同金/36桂
- 44桂 37桂 同香 36金 同香/37金 24玉
- 16桂 15玉 24桂 16桂 同香 26玉 18桂
- 同金/27桂 35桂 27桂 同香 16玉/26香
- 28桂 同金左/18桂 17歩 15玉 16歩
- 24玉/15桂 25香/26歩 34玉 26桂 33玉

43桂 42玉 34桂 41玉 42歩 まで 53手

☆この手順だと歩を入手した時点で丁度47手に達してしまっているのですが、それでも発見が容易でなかったということは、本局が難解な理由が「際どい紛れ筋が多いから」なのではなく、「手数をかけても詰めること自体が難しい」タイプの作品であったということでしょうか。

☆成禁条件を付加すると、本局のようにシンプルな配置から凝った手順が実現する場面が多いので、創作テクニックとしては是非覚えておきましょう。

総評

中山省吾—初めての解答です。何とか、正答と思われる順を発見したので、投稿します。フェアリー詰将棋は、今回解くのがほとんど初めてなので、なかなか感覚がつかめず苦労しました。これからも解ければ送っていきます。

☆こちらこそ今後とも宜しくお願いします。中山さんは第2番にも解答を下さったのですが、ルール解釈に若干の誤りがあって、残念ながら不正解でした。

神無七郎—今月は「氾濫」結果稿の作成時期とも重なっているので、解くのが1作で良いのは助かりました。とはいえ、やはり2作は少ないですね。フェアリーならこのくらいの枚数でも作るのが難しいとは思えないのですが…。

☆仮に能力的には創れたとしても、そもそも握り詰に意義を感じないという方もいらっしゃるでしょう。この辺りはそれぞれの価値観の問題なので何ともいえない所です。

☆ではまた次の機会にお会いしましょう！

小峰耕希

<写真>

こんな散らかった場所でお昼寝しなくても…。



推理将棋第57回出題解答担当：DD++

出題： 平成24年7月4日
 解答締切： 平成24年7月20日
 推理将棋第57回解説 担当 DD++

今年に入って以降この推理将棋コーナーでは奇数月に余詰が出るという謎のジンクスがあるのですが、今月も残念ながらそれを踏襲してしまいました。申し訳ありません。

57-1 初級 鈴川優希さん作 5枚の焦点 9手

「隣の将棋、9手で詰んだって？」
 「うん。5枚の後手駒が利いている地点に、先手が着手したのが印象的だったなあ」
 「5枚の焦点だって?! 先手は詰将棋作家だったのかな」
 「いや、7手目のあの馬の手は、将棋指しが好むような手だったよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 9手で詰んだ
- ・ 先手は5枚の後手駒の焦点に着手した
- ・ 7手目は馬の着手

※間に別の駒がある場合は利きがあるとはみなしません。例えば初形で84に利いている後手駒は83歩の1枚だけ。82飛はここでは84に利いている駒には数えません。

出題のことば (担当 DD++)

後手が初形から最も簡単に5枚の利きを重ねる方法は？

追加ヒント：

5手目に焦点へ打った角を6手目にとってしまいます。角は横利きがないことを利用して退路封鎖に使いましょう。

推理将棋57-1 解答

- ▲7六歩 △3四歩 ▲2二角成 △5二金左
 ▲6二角 △同金寄 ▲3一馬 △5二角
 ▲4二銀 まで9手。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	帝	王		馬	科	皇		一
	飛		帝	皇	銀					二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩		三
							歩			四
										五
		歩								六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩		七
							飛			八
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香		九

持駒 なし

先手が5枚の焦点に着手ということは、まず後手が5枚の焦点を作らねばいけません。さて初形を見ると4枚の焦点というのは42、52、62の3箇所にも最初からあります。ここにもう1枚利きを重ねるには33角で42に5枚の焦点を作るか、52金左で62に焦点を作るか。間接的な利きも含めるなら52金右で42に焦点を作ること考えなければいけません、今回は注意書きによりそれは除外されます。

それを踏まえて条件を見ると、7手目は馬の着手という条件が効いてきます。この7手目が5枚の焦点だとするとどのパターンでも王手。8手目は当然玉が逃げる手となり、これだけ後手駒が密集してる中あと1手で詰ますのは到底無理。つまり焦点着手は7手目ではありません。当然焦点着手で詰みなんてこともありえません。

つまり焦点着手は5手目に確定。それに加えてその時点で馬がある、というのを実現できるのは「76歩、34歩、22角成、52金左、62角」もしくは「76歩、54歩、44角、52金左、62角成(2手目4手目手順前後可)」のみ。

ここからあと4手で詰むのは前者だけ。31銀を

奪って42へ打つ時に52地点がガラ空きになるのですが、詰みに不要な（むしろ邪魔な）先手が打った角を後手が奪い返してこれで52を埋めるのが推理将棋らしい妙手、これでびったり詰みです。

なお今回の「利き」の定義に関する注釈ですが、コメントで渡辺さんからご指摘いただいたとおり、間接的な利きを含める場合と含めない場合があります。今回は作者からの指定がなく、またどちらを採用しても全く問題に影響はないため私の方で定義を指定しましたが、推理将棋界で同意を得られた決め事というわけではありません。利きを条件に使う場合はご注意ください。

それではみなさんの短評をどうぞ。

橘圭伍「1手で5枚の焦点は出来るので考えやすい」

■2手で作る順もそれほど多くありませんし。

星の平原「8手目が今貰ったばかりの駒を打つ手で一瞬盲点に。」

■この52角打ちは作例こそここまで多くはないですが手筋と言っていいのかもしれませんが。

NAO「居玉は銀で詰ませにくい、金が寄った後に角打。」

■43か53に先手馬を置く形を除くと、52を後手がどうにか埋めてあげないといけませんからね。

朱「焦点に打った角をあっさり取ってしまっただ退路塞ぎに打つのが好感触。5枚の焦点への着手という条件は簡潔で意外性があっていいですね。」

■玉方の駒打ちは推理将棋では総じて好感触。

斧間徳子「6手目同金寄のように詰め方の大駒による王手を同〇〇と取るのが、推理将棋ではむしろ新鮮に感じます。」

■おもちゃ箱で出せるクラス、しかも初級だと確かに新鮮に感じるかもしれませんね。

諏訪冬葉「銀だと横に逃げられる・・・と思ったら後手の手に角があった」

■実戦ではまず考えられない銀腹封鎖です。

はなさかしろう「面白い焦点条件と盲点に入りやすい手順、引き締まった好作ですね。7手目条件が成生限定と6手目以降△41玉▲53角成等の余詰消しに働いて、技あり、でした。」

■この7手目条件、実はかなりたくさん余詰をきわどく潰しています。

平井康雄「42地点だとばかり思っていました。8手目もヒントがなければ気付きにくい。」

■ここに角の利きを重ねるのは残念ながら次の問題。

KG「先手の角を5枚の焦点へ動かそうとすると失敗しますね。」

■そこで駒が取れないというのがけっこうキツイのです。

隅の老人B「5枚の焦点は何処に？これを探して、あちこち彷徨、ああ暑い暑い、暑いなあ。」

■候補地は全て歩の屋根の下、日陰なので少しは安心？

たくぼん「52金左がまさにこの一手。52角も味がいい。」

■居玉の場合52は攻防の中心地ですから。

はらたつ「3手目角とり、5手目角打ち、7手目馬ですからこの手順。」

■お見事。

みや「横利きのない角で退路封鎖は最近見たばかりだったのでわりとすんなりと解けました。」

■そのための角のラリーが見えれば、あとは何も難しくなかったでしょう。

渡辺 「手なりで解けました。5枚の焦点に指すような詰将棋ってあるのでしょうか？」

■もちろん全ての駒配置に意味があるという条件でですよ。一体何枚焦点まで作れるんでしょうか。

宮谷保可楽 「62角のホウリコミから52角とダメを詰めさせて死形に持ちこむ。」

■むむ、まさかの推理碁ですか！？ 九路盤ですら大変そう……。

S.Kimura 「6手目と8手目で逃げ道を塞いでしまうのがうまいですね。」

■41金をうまくどけている点にもご注目。

鈴木康夫 「玉飛金銀は当たり前でもう一枚は角かと思いました。」

■7手目が馬じゃなければ71角成から42銀と玉飛角金銀の焦点に打つ順があるんですけどね。

変寝夢 「同金寄～5二角が一連の好手。締め切り前ヒントはそれを上回る好ヒントです。」

■いえいえ、ヒントは作られた手順に乗っかっているだけです。

かめぞう 「これだけできました。符号の書き方に気をつけないと。」

■符号を多少間違えても、作意手順を書こうとしたのが明らかであれば正解とさせていただきますのでご安心を。

正解：20名

S.Kimura さん 斧間徳子さん かめぞうさん
 KG さん 朱さん 鈴木康夫さん 隅の老人B
 さん 諏訪冬葉さん たくぼんさん 橘圭伍さん
 テイエムガンバさん NAOさん はなさ
 かしろうさん はらたっとさん 平井康雄さん
 変寝夢さん 星の平原さん みやさん 宮谷保
 可楽さん 渡辺さん

57-2 中級 鈴川優希さん作
 5枚の焦点II 10手

「隣の将棋、5枚の焦点に着手があったよ」
 「それ、さっきも聞かなかったっけ」
 「いや、別の将棋だよ。もっと詳しく説明すると、先手の玉、飛、角、金、銀が利いている地点に、後手が角を打ったんだ」
 「なるほど。それで、どっちが勝ったの？」
 「10手で先手玉が詰まされてた」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・10手で詰んだ
- ・先手の玉、飛、角、金、銀の焦点に、後手は角を打った

出題のことば (担当 DD++)

後手が打つ角をさてどうやって入手しましょう。

追加ヒント：

後手が打った角は最初に22にいた方の角。トドメは桂馬です。

推理将棋57-2 解答 担当 DD++

- ▲7六歩 ▼3四歩 ▲2二角不成 ▼3三桂
- ▲4五角 ▼同 桂 ▲7七角不成 ▼6八角
- ▲5八玉 ▼5七桂成 まで10手。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	玉	金	銀		香	
二		飛								
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四							歩			
五										
六			歩							
七	歩	歩	角	歩	手	歩	歩	歩	歩	
八				馬	王			飛		
九	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	

持駒 なし

条件を見て考え始めたところで首を捻った方は多いでしょう。後手は角を打つので当然先手から角を奪うことになります。しかしその打ち場所が先手角の利きということは、もちろん先手角が残っていなければなりません。これをどうやって解決するかが当然ながらこの問題最大の課題です。

真っ先に考えつくのは角交換して先手が先に角を打つことでしょう。非限定はあるものの「76歩、34歩、22角不成、同銀」と進んで互いの角打ち。48地点と68地点に玉飛金銀の焦点があるので、続けて「77角、68角」という感じでしょうか。しかしここから後手が指せる手はあと2手。79角成と銀を取っても銀打ちまでの詰みはありません。自陣から駒を連れてくるにしても3手かかります。どうやらこれでは1手間に合わないようです。

そこで少し前に戻って3手目局面を考えてみましょう。「76歩、34歩、22角不成」のところでききは22の角を取りました。しかし、よくよく状況を見るとこの瞬間先手は角を2枚持っています。何も22の角を奪わなくても今先手の駒台にある方の角を入手する手もあります。

その場合先手から駒をさらにもう1枚奪うのは不可能。なので3手かけて自陣から駒を運ぶしかありません。パッと見えるのは34にいる歩ですが、37地点は桂が利いている上に48か68に打った角との連携する詰み形が作りづらい。じゃあ他に、と探すともう1枚、21桂が3段跳ねで57地点を攻める手がありました。

「76歩、34歩、22角不成、33桂」と進んだところで次の桂跳ねを見越して45へ角を打って渡すのが推理将棋ならではの好アシスト。同桂と2段目を跳ねたところで後手の角打ち条件をクリアするために先手が角を22から77へ引いて後手68角。ここまで来ればあとの2手はすぐに見つかりますね。

それではみなさんの短評をどうぞ。

橘圭伍 「77角型を作りながら自殺するには、と考えると手数の関係上一方が取るしかないで

すか。1条件で巧く仕上がった好例ですね」

■先手はかなり手が余ることに気づけるかどうか、ですね。

星の平原「先手の角を7七に持って行くのに後手から△7七角と飛び込む手順や、先手から▲2二角△同○○で交換後▲7七角打を考えてしまい泥沼に。よく考えればどちらの手順も成と不成（後者は後手の応手も）が限定できないので本手でない。とこれは後の祭り。もう一度頭をクリアにして、詰め上がりが焦点の角を残しもう一つ別の駒との協力と考えて、△3四歩（絶対手）を活かした自陣桂の活用はどうだろうと思いついて試してみたらぴたりとはまりました。▲2二角不成からワテンポ置いて▲7七角不成と戻るのが間に合わないようでぴったり間に合ってますね。気持ち良い手順です。」

■この気持ちいい順が1条件だということですから言うことなし。

NAO 「後手が角を取る場所が22でも33でもなく45とは不思議な手順。1条件で限定できているのは素晴らしい。」

■あまり見ない駒取り場所ですよ。

朱「はじめ単純な角交換を考えたが詰み形を作るには手数不足。どうしたものかと考えるうち、▲22角不成～▲77角不成に思い至る。あとは後手への角の渡し方だが、まさか21の桂が跳んでくるとは。」

■自陣から駒を持ってくる場合、歩や桂馬は意外と使われる駒なのです。

斧間徳子 「この巧みな10手が1条件で表現できるとは凄い！ 傑作と思う。」

■同感。

諏訪冬葉 「22角が生還するとは思いませんでした。」

■実は初級でも生還している22角。与えられた役割は全然違いますが。

はなさかしろう「初級で慣れた後だと解図はひと目ですが、▲45角がスピードアップの絶好打。一条件で駆け抜ける鮮やかな手順でした。7手からある詰み形なので10手に引っ張るのは大変かと思いきや、桂を条件に出さず『角を打った』で余詰をかわし切るところに技術を垣間見ました。」

■この桂限定は推理将棋を作ったことがある人の方がびっくりするでしょう。

平井康雄「最終ヒントによって、3手目角取り、5手目角打、6手目角取り、7手目角引、8手目角打となるので4手目は33桂しかないという結論に。とどめの桂を持駒にする余裕はないので跳ねていくしかないですね。」

■9手や10手で片方が駒打ち2回はけっこうハードですからねえ。

KG「初めは、成り不成の条件がないことから中段での角交換を考えて失敗。先手の角が不成のまま敵陣まで行って帰ってくると気づき、最後に5七の地点に行ける駒は？と考えて正解にたどり着きました。」

■裏読みは時にやり過ぎでドツポにはまります。

隅の老人B「桂がピョンピョン、もう一つピョン、三段跳びでゴールイン。」

■七段目のゴールテープに1つ異質なものが混ざっているのはご愛嬌。

たくぼん「攻守替わって趣きも替わる。問題文に桂の文字がないのに桂の3段跳ねとは凄いね」

■しかも隠そうとした感じが全くないというのがなんとも。

はらたっと「22角を無視して33桂が浮かびにくい手順です。」

■目の前にぶら下がった人参は毒入りでした。

みや「同じ5枚の焦点でも先手と後手でだいぶ違うんですね。とどめの桂馬がなかなか読めず、

苦労しました。」

■奥まったところにいますから忘れがち。

渡辺「初形から先手77角の形で68角が最も労せずに条件を満たす形であることを発見してからは、45に角を打って桂に取らせる手順は想像に難くないですが、それまでが、苦労しました。」

■これを渡辺さんが苦労されるとは意外でした。

宮谷保可楽「追加ヒントが出たとたんの閃き…。45角で桂馬の3段跳び。」

■ヒントが役立ったようで何よりです。

テイエムガンバ「『先手の玉、飛、角、金、銀が利いている地点に、後手が角を打った』=『角交換の後に▲7七角▽6八角』と考えていましたが、5手目▲4五角とは……。」

■交換ではなくラリーなんですね。推理将棋独特といえば独特の手筋。

S.Kimura「33桂がなかなか思い浮かばずに苦労しました。41-1の解答でタラパパさんに『ほんとに？(笑)』と返されましたが、桂馬を使う筋を本当にうっかりしてしまいます。」

■攻方手順のブラックボックス度合いが高い場合は動かし方の自由度が低い歩や桂が使われていることが多い、というのは参考にしてもいいのかも。

鈴木康夫「これは凄い。全ての手が有機的に働いています。」

■実はよーく見ると77角不成は無駄手なんですけど、他があまりに濃密すぎて全くそんな感じがしないんですね。

変寝夢「68角、67桂なんだろうけど見えず」

■68角57桂ですかね。この桂を奪おうとすると失敗です。

正解：18名

S.Kimura さん 斧間徳子さん KG さん
朱さん 鈴木康夫さん 隅の老人Bさん 諏訪
冬葉さん たくぼんさん 橋圭伍さん テイエ
ムガンバさん NAOさん はなさかしろうさ
ん はらたっとさん 平井康雄さん 星の平原
さん みやさん 宮谷保可楽さん 渡辺さん

5 7-3 上級 鈴川優希さん作
世界のナベアキ 15手

「昨日の竜王戦、すごかったな。手数
が3の倍数の時に成る手が、5の倍数
の時に同のつく手が指されたんだ」

「まるで、どこかのお笑い芸人だね」

「でも流石は竜王、15手で詰まして
快勝だ。1段目に小駒打ちがあつたり、
8筋に小駒打ちがあつたり、面白い
内容だったよ」

「防衛目指して頑張ってください」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 15手で詰んだ
- ・ 3、6、9、12、15手目は成る手
- ・ 5、10、15手目は同のつく手
- ・ 1段目に小駒打ちがあつた
- ・ 8筋に小駒打ちがあつた

出題のことば (担当 DD++)

それぞれの駒打ちの内容をある程度決
めてかかるのが肝要。

追加ヒント：

7手目に8筋へ銀打ち、8手目に一段
目に香打ち、さらにもう一度13手目
にもトドメで61へ成るための銀打
ち。

推理将棋 5 7-3 解答 担当 DD++

- ▲ 7六歩 ▽ 4二飛 ▲ 3三角成 ▽ 3二銀
- ▲ 同馬 ▽ 9九角成 ▲ 8二銀 ▽ 3一香

- ▲ 7一銀成 ▽ 同金 ▲ 4三馬 ▽ 3七香成
- ▲ 7二銀 ▽ 6一金 ▲ 同銀成 まで15手。

詰上り図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科		全	王	帝		科	皇	一
					馬				二
歩	歩	歩	歩	歩	馬		歩	歩	三
									四
									五
			歩						六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
皇	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	九

持駒 金歩2

タイトルにあるナベアキはもちろん渡
辺明竜王ですが、問題内容は世界の
ナベアツこと渡辺鐘さんの有名な
お笑いネタのパロディ。3の倍数
でアホになる代わりに、3の倍数
でアホに成る条件です。ただし3
のつく数字はこの問題では免除
されています。

合計5枚の駒を成らなくては
いけません。これだけやること
盛りだくさんの中で角以外の自
駒を成るのは難しいと考えると、
先手が2枚、後手が1枚は成る
ための駒を打ちたいところ。し
かも9手目に成る駒は5手目に
取った駒を7手目に打つしか
なく、12手目に成る駒は6手
目に取った駒を8手目に打つ
しかありません。

それができるのは「76歩、王手
事前回避、33角成、32銀 or
42銀、同馬、99角成、銀打ち、
香打ち」という形。さてこの2
回の駒打ちで8筋と一段目の条
件をさっさとクリアしたいところ
です。しかし7手目銀打ちを一段
目、つまり31銀から9手目銀
成では15手目に成る駒を取る
のが困難。一応2手目42飛
なら飛車を取れますがこれでは
詰みません。ならば8手目の香
の方を31へ打ちましょう。

一方銀はというと、9手目にな
った直後に取られるのでここで
最終手用の駒を取りたいところ。
後手駒の利きにあり、銀打ちで
取りをかけることができ、打つ
て成れる駒、というと馬の利き
にある11香か金の利きにある
71銀。ただしここで香を取り
に行くとその香を8筋に打つ
こと

になりとても同香成で詰みません。ですからここは飛車がどいた後の 82 へ銀を打ち、71 銀を奪ってみましょう。

それを踏まえて再度手順を整理すると、「76 歩、42 飛、33 角成、32 銀、同馬、99 角成、82 銀、31 香、71 銀成、同金、21or22or23or43 馬、37 香成、銀打ち、何か、同銀成まで」。これを見ると後手玉は居玉なので馬が 2 筋にいては使い物になりません。ですから 11 手目は 43 馬。52 地点は飛金どちらかの利きが残るため、最後は 72 銀から 61 同銀成でしか詰みません。あとは条件に合わせるように 14 手目に金が 61 へ戻れば手順完成です。

条件は面白かったものの、しかし残念ながら最初の出題には余詰がありました。まずは朱さんからの余詰解。

▲ 7 六歩 ▽ 5 二玉 ▲ 3 三角成 ▽ 3 二銀
▲ 同 馬 ▽ 8 八角成 ▲ 8 四銀 ▽ 6 二銀
▲ 8 三銀成 ▽ 同 飛 ▲ 8 八銀 ▽ 8 七飛成
▲ 5 一角 ▽ 4 二金 ▲ 同角成

続いて諏訪冬葉さんからの余詰解。

▲ 7 六歩 ▽ 4 二飛 ▲ 3 三角成 ▽ 3 二銀
▲ 同 馬 ▽ 9 九角成 ▲ 7 二銀 ▽ 3 一香
▲ 6 一銀成 ▽ 同 玉 ▲ 4 二馬 ▽ 3 七香成
▲ 8 二飛 ▽ 5 二金 ▲ 同飛成

採用前の検討が不十分でした。大変申し訳ございませんでした。

それではみなさんの短評をどうぞ。

橘圭伍 「1 手 1 手を埋める作業。成と同が連続する所を起点にすれば易しく限定できる。31 香からの手順は自分好みです」

■この 31 香は非限定消しに一役どころか三役くらい買っています。

星の平原「竜王戦というのが隠しヒントかなと思って、先手の飛車が成って詰む形を主に考えてしまいました。思い込みはよくないですね (笑) 二手目△4 二飛は何回か考えたのですが、何故かこの手順だけ抜けてました。▲4 三馬が

見えにくかったのかもしれないです。でも今考えれば思いつきそうなものですけどねえ(溜息)」

■43 馬や 63 馬は金や成小駒で居玉を詰めるのに最も有効なポジションです。

NAO 「3 の倍数はアホな手ではなくて成る手。いろいろ手段がありそうな感触でしたが、意外に手が狭くさくっと解けました。手順前後を許さない後手の 1 段目香打がなかなかの手。」

■これが地味ながら上手い制限なんですよ。唸られます。

朱(余詰解)「手順がイメージしにくい条件で、一目難解。分る箇所だけ棋譜に書きだし、初手からありそうな手順を探る。一応条件に合う手順を見つけたと思うのですが、11 手目に非限定(▲88 銀に代えて▲88 飛も可)があり、正解かどうか自信ありません。しかし成と同をネタに引っ掛けて手順の骨子を作る発想が秀逸。」

■作意とは別順でしたが、条件に合っていればもちろん文句なしの正解です。余詰解があったのはこちらの不手際、申し訳ありません。

斧間徳子「普通は 7 手目 31 銀に目が行きますよね。これが際どく詰まないのが不思議。8 筋に後手が香を打つとすると打ち場所を限定しにくいことに気づき、先手の 82 銀打かなと考えたらすぐ解けました。」

■この「後手 8 筋香打ちは非限定になりそうだ」に気付くと作意に一気に近づけます。

諏訪冬葉「△31 香 で 12 手目の成り位置と 11 手目・13 手目の手順前後を消す順が捨てがたいのでそこから考え直しました。」

■作家的な考え方ですが、今回のような問題ではこれが意外と有用。

はなさかしろう「条件の趣向を楽しむ問題ですが、13 手目も成りたかった...15 手では無理ですが(笑) 8 手目と 11 手目あたりの自由さがアヤシかったのですが、余詰筋もほぼびったりの手順でこちらはコメントを見てもしばらく見つけられませんでした。難しい。」

■ 5の倍数を無視した場合でも、「3の倍数と3がつく手で成る」でちょうど15手詰は無理ですね。13手詰とか17手詰はできますが。

平井康雄 「ポイントは6手目、12手目の後手の成る手ですね。これこそ最終ヒントがなければわけがわかりませんでした。それにしても、どんな余詰だったのか、気になるところです。」

■ こんな余詰でした。どちらもけっこうギリギリの順なので見つけるのは簡単ではありません……と私が言うとなんだか言い訳っぽくなってしまいますが。

KG 「銀と香を使うんだらうなどは思っていたのですが、8筋にいたままだと邪魔な飛車を動かすという発想が何故出てこなかったのか。己の頭の発想の無さを恥じるばかり……。」

■ 柔軟な人は81桂をどかして一度の駒打ちで両条件をクリアするところまで候補に入れていたかも。

隅の老人B 「最後の2条件に手順確定への作者の苦勞が感じられます。暗算で解けるのは10手まで、そんな老人になりました。」

■ これだけあちこちに手が飛ぶと暗算で解ける人もけっこう限られてきそうです。

たくぼん 「なかなか面白い条件付けですね。こういうのを考え付く頭の柔らかさが羨ましい。」

■ 私としてはフェアルールにあれだけ対応してみせるたくぼんさんの柔軟さが羨ましいです。

はらたっと 「ヒントが出て31香から37香成が見えました。」

■ 32に馬がいるせいでちょっと躊躇する1手です。

みや 「これは難しい。締め切り前ヒントがなければ手も足も出ませんでした。ヒントがやさしかったおかげで前後の手がわかり、締め切り直

前で解けました。この解後感はきもちいいです。」

■ これだけ無茶苦茶やりながら、最後は余計な攻め駒も利きの重複もない綺麗な詰み方なんですよね。

渡辺 「これですね。角を取らないのが盲点でした。」

■ 私は逆に88で角(馬)を取るのが完全に盲点でした。31銀から22銀成同馬同馬と取る順は検討にあったのに……。

宮谷保可楽 「ウマイこと『成』も『同』も入ったなあ……。」

■ 15手目に成と同時に成立する条件として同を思いついた時点で発想の勝利。

S.Kimura 「2手目を62玉としていたので、ヒントがなければ解けませんでした。」

■ 42銀同馬なら31香が走りやすそうですもんね。私も62玉の順は散々読まされました。

正解：17名

双方解：KGさん、諏訪冬葉さん、はなさかしろうさん、星の平原さん、渡辺さん

S.Kimuraさん 斧間徳子さん KGさん 朱さん 隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん たくぼんさん 橋圭伍さん テイエムガンバさん NAOさん はなさかしろうさん はらたっとさん 平井康雄さん 星の平原さん みやさん 宮谷保可楽さん 渡辺さん

総評

橋圭伍 「総じて易しい作品でしたが巧く纏まっているので解後感良かったです。この位の難度だと肩も凝らないし気分転換になりますね」

■ まとめ方がうまいというのは同感です。そのあたりのセンスを今後も期待したいところ。

星の平原 「上級の余詰めは残念でしたが、57-1と57-2の双子趣向は楽しませてもらいました。鈴川さんの今後の創作でのご活躍期待しております。」

■今後出題される鈴川さん作をお楽しみに。と、こっそり鈴川さんに作品投稿を要求してみたり。

NAO 「2の1条件といい、斬新な3番の条件といい、鈴川さんは只者ではない。今後のご活躍が楽しみです。」

■本当に今後が楽しみです。

斧間徳子 「今月の3題はどれも好作で、楽しめました。」

■だそうですよ、鈴川さん。

はなさかしろう 「5枚の焦点は解きやすく解いてからも楽しいシリーズでした。」

■難度も一捻りありつつしかし鍵を見つければあとはすんなりという理想の難度でした。

隅の老人B 「暑い暑い、解答意欲が減退。こんな時にはズルをしよう。ヒントが出るまで考えません。17日にヒントあり、一読、さあ、解こう、2時間ほどで楽々3問解決。3問（上級）目なんぞは、ヒントのように駒を動かしたら解けちゃった、です。最後に皆様へ、暑中お見舞い申し上げます。」

■ず、ずるい（笑）

隅の老人B 「前回の56-3、条件の『歩の着手と王手は丁度1回ずつ』の『1回ずつ』を、『先後手の双方に1回ずつ』と読み違い？て解きました。これでは解ける筈がないですね。」

■半分にわけて返信。あー、なるほど。そういう読み間違いも発生しないように気をつけなければいけませんね。

はらたっと 「3問目、手数は長いですが3手、

5手毎同〇、〇成という条件は意外に狭いですね。」

■意外に狭いと思った結果が余詰二解でした。

みや 「1～3まですべて解答できたのは久しぶりでした。暑い夏に頭を熱くさせて推理将棋を考えるのはしんどいですが、締め切り前にとけてよかったです。」

■けっこう緩めのヒントにしたのは正解だったかな？

渡辺 「今回は初級以外はかなり苦労しました。」

■こちらは渡辺さんの解答がないことに冷や汗ダラダラでした。

宮谷保可楽 「この世界にも次から次と新人が現れる…。頼もしい限りじゃのう…。」

■まったくです。

推理将棋第57回出題全解答者： 20名

S.Kimura さん 斧間徳子さん かめぞうさん
KG さん 朱さん 鈴木康夫さん 隅の老人B
さん 諏訪冬葉さん たくぼんさん 橘圭伍さん
テイエムガンバさん NAOさん はなさ
かしろうさん はらたっとさん 平井康雄さん
変寝夢さん 星の平原さん みやさん 宮谷保
可楽さん 渡辺さん

残念ながら解答者なしに終わった WFP46 号出題、WFP47 号再出題の『矢絰Ⅱ』だが、これにたどり着くまでには長い長い道のりがあった。

【始まり】

WFP42 号に氾濫 37 のテーマ案が載った。「(一時的・永続的を問わず) 利きのない駒が出てくる作」。このテーマに沿うものとして作っていたこんな図がそもそもの始まり。なお、後手の持駒は無制限。以降の図も同様。

安北ばか自殺スタイルメイト 52手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
									王	三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 飛7 桂19

11飛 22玉 12桂 11玉 23桂 22玉 14桂 23玉
21飛 32玉 22桂打 21玉 33桂 32玉 24桂 33玉
31飛 42玉 32桂打 31玉 43桂 42玉 34桂 43玉
41飛 52玉 42桂打 41玉 53桂 52玉 44桂 53玉
51飛 62玉 52桂打 51玉 63桂 62玉 54桂 63玉
61飛 72玉 62桂打 61玉 73桂 72玉 64桂 73玉
71飛 82玉 72桂打 71玉 まで 52手

達成図

										一
		王								二
		桂	桂	桂	桂	桂	桂	桂		三
			桂	桂	桂	桂	桂	桂		四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

余談になるが、この図のままでは余詰だらけなので、邪魔駒の歩でも適当に置いて完全化し

ようと思って試行錯誤していたときに見舞われたのが、WFP44 号掲載の読み物「玉の全格巡り」で言及した f m の不具合。

f m は修正できたが、二段目と四段目に桂を並べるといふ妄想は残念ながら破綻してしまった。持駒の飛車がどうしても制御できなかったのだ。もちろん、持駒の飛車がこんなにあってはまともな検討などできるはずもないのだが。

なので、諦めるのも早かった。

【仕切り直し】

そこであっさり方向転換。ルールを安北から K マドラシに、持駒は桂のみにしてみた。K マドラシで「利きのない駒」を実現するのは、かなりインチキくさいが、制御不能の余詰に悩まされる可能性は随分小さくなるだろうと思ったのだ。

で、11 王配置に決め打ちして最初にできたのがこれ。

K マドラシばか自殺スタイルメイト 10手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 桂4

53桂 61桂 33桂 31玉 43桂 51桂 21桂成 同玉
33桂 41桂 まで 10手

達成図

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

対峙する桂が二列に並んだきれいな達成図

検討に要した時間は 46 秒。/ETMMP=3 と指定する数字を大きくすることで、スタイルメイト達成手順を見逃す危険性は小さくなるが、逆に検討時間は大幅に長くなる。実際に試したところ、13 時間 37 分 6 秒もかかってしまった。それでも唯一解だったので、この時点で『矢絰』と仮命名して氾濫 37 候補作としてストックしておくことにした。/ETMMP=4 で検討して唯一解だったら、晴れて正式な名前に昇格させようという思いだ。七郎さん曰く「桂馬の傾きに進む趣向が何の仕掛けもない盤上で実現すれば画期的です」。

/ETMMP=4 で検討を開始。当初の予想検討時間は、/ETMMP=3 の検討時間の約 60 倍で、一ヶ月ちょっとという見積もり。検討開始後しばらくして途中経過を見ていると、どうも予想の数倍の時間がかかりそうな感じになってきた。このままではどうもならないので、どうにかしないとイケない、と必死で考えた。

【出直し】

で、思いついたのが、命名の由来通り、作意の着手は矢絰模様内に閉じているので、着手を矢絰模様内に限定させての検討。作意の近傍の非限定は抽出できるに違いないと考えたのだ。

実際に試してみたところ、

Kマドラシばか自殺スタイルメイト 42手

●	王	●		●		●		●		●
●		●		●		●		●		●
	●		●		●		●		●	
	●		●		●		●		王	
●		●		●		●		●		●
●		●		●		●		●		●
	●		●		●		●		●	
	●		●		●		●		●	
●		●		●		●		●		●

持駒 桂20

93桂 82玉 94桂 93玉 85桂 94玉 86桂 85玉
 77桂 86玉 98桂 77玉 89桂 97桂 69桂 66玉
 78桂 86桂 58桂 65玉 77桂打 54玉
 66桂打 45玉 57桂打 65桂 37桂 34玉
 46桂打 54桂 26桂 33玉 45桂打 53桂
 25桂打 22玉 34桂打 42桂 13桂成 同玉
 25桂打 33桂 まで 42手

達成図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
●		●		●		●		●	一
●		●		●	桂	●		●	二
	●		●	桂	●	桂	●	王	三
	●		●	桂	●	桂	●	王	四
●		●	桂	●	桂	●	桂	●	五
●	桂	●	桂	●	桂	●	桂	●	六
桂	●	桂	●	桂	●	桂	●		七
桂	●	桂	●	桂			●		八
●	桂	●	桂	●		●		●	九

持駒 なし

あっさり潰れた。/ETMMP よりはるかに安全な /ETMH を指定して、1 分 0 秒で 93 解検出。上記はそのうちの一手順。●は f m で扱える駒の一種の石で、不可侵、不透過の領域。/ETMH の意味は以下の通り。

~~~~~  
 /ETOO\_MANY\_HANDS | /ETMH

協力自玉詰および協力自玉スタイルメイトで、残り 2n 手（受方の手が指された直後）で攻方の持駒の数が n+1 枚以上ならば、それ以上その枝を検索しないというオプションです。

持駒があっても打てないという特殊な状況は考慮されません。通常は気にする必要はないでしょう。

これは f m 使用者が外挿する不詰の条件です。すなわち、誤って指定すると解析結果も誤ることになります。

~~~~~

リスク覚悟の TMMP オプションを使ってもなかなか検討しきれなかった『矢絰』だが、石で《枠》を作ること短時間のうちに余詰を検出することができた。これを逆手に取れば、《枠》は新たな検討手法として使えることになる。ただし、《枠》はこの問題固有の検討手法で、他への応用はまったくできそうにもないが。

それで、この《枠》を使ってたどり着いたのが『矢絰 II』だったのだ。

Kマドラシばか自殺スタイルメイト 52手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
								王	三
									四
									五
									六
王									七
									八
									九

持駒 桂25

89桂 96玉 88桂 85玉 97桂打 84玉
 96桂打 73玉 85桂打 72玉 84桂打 61玉
 53桂 52玉 64桂 72桂 44桂 53玉 65桂 73桂
 45桂 64玉 56桂 65玉 77桂打 56玉
 68桂 76桂 48桂 45玉 57桂 65桂打
 37桂 44玉 56桂打 64桂打 36桂打 33玉
 45桂打 53桂 25桂打 32玉 44桂打 52桂
 24桂打 21玉 33桂打 41桂 12桂成 同玉
 24桂打 32桂 まで 52手

達成図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				桂					一
		桂	桂	桂	王				二
		桂	桂	桂	王				三
	桂	桂	桂	桂					四
	桂	桂	桂	桂					五
桂	桂	桂	桂	桂					六
桂	桂	桂	桂	桂					七
	桂	桂	桂	桂					八
	桂								九

持駒 なし

実際の検討で使った《桂》付きの原図はこう。

Kマドラシばか自殺スタイルメイト 52手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
●	●	●	●	●	●	●	●	●	一
	●	●	●	●	●	●	●	●	二
	●	●	●	●	●	●	●	王	三
●	●	●	●	●	●	●	●	●	四
●	●	●	●	●	●	●	●	●	五
	●	●	●	●	●	●	●	●	六
王	●	●	●	●	●	●	●	●	七
●	●	●	●	●	●	●	●	●	八
●	●	●	●	●	●	●	●	●	九

持駒 桂25

達成図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
●		●		●	桂	●		●	一
	●	桂	●	桂	●	桂	●	王	二
	●	桂	●	桂	●	桂	●	王	三
●	桂	●	桂	●	桂	●	桂	●	四
●	桂	●	桂	●	桂	●	桂	●	五
桂	●	桂	●	桂	●	桂	●		六
桂	●	桂	●	桂	●	桂	●		七
●	桂	●	桂	●	桂	●		●	八
●	桂	●		●		●		●	九

持駒 なし

ただ、この《桂》を使った検討が、一般論としてはともかく、『矢絰II』に対してどれほど有効なのか（十分なのか）は精査が必要だ。

【シナリオ】

そこで用いたのが絨毯爆撃による手順のパターン化という手法。これは七郎さんがどこかで書いていたと思うのだが、新しいルールでは手筋などが知識として蓄積されていないので、ある条件下で絨毯爆撃を行なうことは、そういった手筋のあぶり出しに役立つ、と。これを応用しようと思ったのだ。

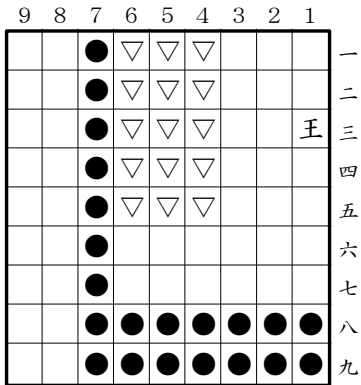
Kマドラシばか自殺スタイルメイト+双裸玉(13王)+持駒桂のみの条件で絨毯爆撃→スタイルメイト達成手順を抽出→パターン化→スタイルメイト達成手順は終形 12玉となる矢絰模様のみ、というシナリオが狙い。

絨毯爆撃の条件を具体的に書き下すと、

- ・6×7の盤。現実的な時間で絨毯爆撃できるように縮小盤を使用。
- ・王位置は13。『矢絰II』と同じ
- ・玉位置は4筋～6筋。『矢絰II』と同じ玉位置 97にはできないので、ある程度十分なバリエーションを持たせるため。
- ・持駒は桂5から順次増やして行って、検討した玉配置全てでスタイルメイト不成立となった状況が2回連続で発生したら終了。結果として、桂12まで(桂13、桂14ではすべてスタイルメイト不成立)。
- ・手数=持駒数×2+2。着手は桂成が1回のみ。他はすべて桂打。
- ・/ETMMP=4で検討。スタイルメイトが成立した図に対して/ETMMP=5で再検討。

一部条件を図面で表すところなる。爆撃範囲のイメージが湧くのではないだろうか。

Kマドラシばか自殺スタイルメイト 2n+2手



持駒 桂n

この絨毯爆撃の結果、スタイルメイトになる手順パターンは二つのグループに分けられることがわかった。

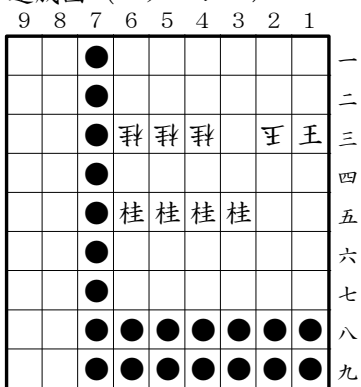
グループA：平行線

- ・パターン1：三段目+五段目
- ・パターン2：二段目+四段目

手数が短い(持駒数が少ない)場合にのみ現れるパターン。初形での玉位置と盤の幅で制限されるので当然と言えば当然か。したがって『矢絨II』では無視してよいパターンであろう。

以下、このパターンの手順でのスタイルメイト達成図の例。絨毯爆撃した範囲でなるべく手数が長いものを選択した。なお、括弧内は初形での玉位置、持駒、手数を示している。

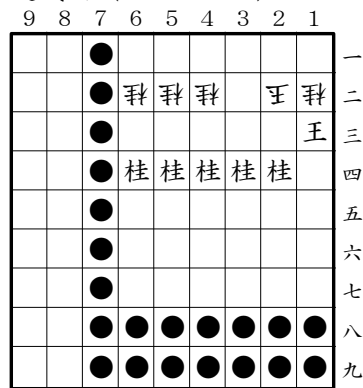
達成図 (パターン1)



持駒 なし

(53玉、桂5、12手)

達成図 (パターン2)



持駒 なし

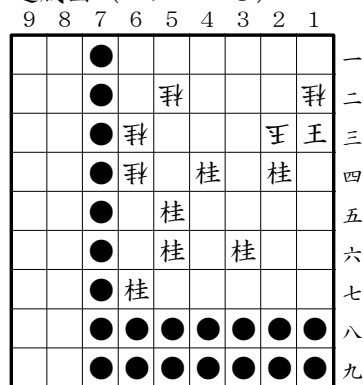
(52玉、桂6、14手)

グループB：矢絨模様

- ・パターン3：23、24を含む矢絨模様
- ・パターン4：22、23を含む矢絨模様
- ・パターン5：24、25を含む矢絨模様

これまでの試行錯誤の過程である程度予想はできていたことだが、グループAを除いた達成手順が矢絨模様のパターンのみになったのはシナリオ通り。以下、グループBのパターン例。

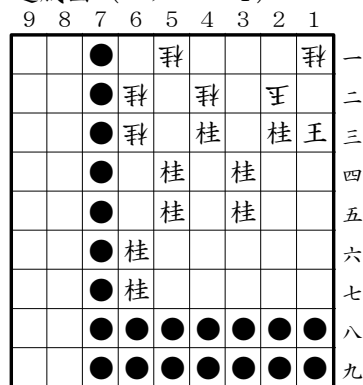
達成図 (パターン3)



持駒 なし

(55玉、桂7、16手)

達成図 (パターン4)



持駒 なし

否定する材料は出てこなかった。

【シナリオ補強検証まとめ】

上述のシナリオ補強検証以上の検証方法は思いつかないので『矢絰Ⅱ』の検証作業はこれで終了である。あとは『矢絰Ⅱ』が完全であることを信じるのみ。氾濫への投稿も控えることにした。

数字だけだが、シナリオ補強検証の一応のまとめを書いておく。まず検出解数。全体的に整合性があるように見える。

手数	持駒数	解数			
		検証1	検証2	検証3	検証4
22~	10~	—	0	—	0
36	17	—	0	0+2	0
38	18	0	1	1+4	1
40	19	0	4	4+0	4
42	20	0	8	8+0	8
44	21	0	4	4+0	4
46	22	0	1	1+0	1
48	23	—	0	0+2	0
50	24	—	0	2+4	2
52	25	—	0	1+2	1
54~	26~	—	—	—	0

- 検証1 : /ETMH + /ETMMP=3
- 検証2 : /ETMH + /ETMMP=4
- 検証3 : /ETMH + /ETMMP=4 + 2手省略
- 検証4 : /ETMH + 《杵》

検証3の欄は要注意。【シナリオ補強検証3】のところでも書いたが、

- ・手数は手数欄の数字より2手短い
- ・持駒数は持駒数欄の数字より1枚少ない
- ・解数は、パターン5の解数+パターン3/パターン4の解数

となっている。

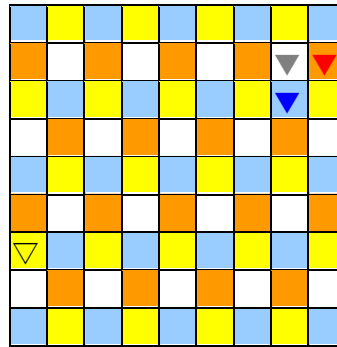
続いて、検証局面数と時間。パターン抽出やシナリオ補強検証全て合わせて、

- ・検証局面数：251
- ・総検証時間：23日13時間12分45秒

となった。いろいろ考えていろいろ試した割りには大した数字にはなっていない印象。複数の異なるPCを使っているし、ここに書いていない試行錯誤も当然あるので、この数字にはあまり意味はないのかもしれない。参考までに、検証で主に使ったPCは、プロセッサ：Intel Core2 Duo 2.53GHz、メモリ：4GBである。

【論理的背景】

なにゆえ矢絰模様が出現するのか。まず、この色分け盤をご覧ください。



王手をかける桂と玉の枡は同じ色である。桂の動きを封じるための桂（攻方、受方にかかわらず）と元の桂の枡の色もやはり同じである。つまり、桂で王手をかけながらその桂の動きを封じるためには、玉はなるべく同じ色の枡を通過するのが効率的ということだ。

『矢絰Ⅱ』での玉の初期位置は黄色の枡である。作意での最終位置は橙色の枡である。したがって、ステイルメイト達成目指して、玉は黄色と橙色の枡を通過するのだ。そしてそれは実際に可能で、この2色の枡は矢絰模様を構成している。これが矢絰模様生成の原理である。

玉の最終位置としては、白と水色もありそうだが、いずれも黄色との2色の枡を通過するだけでは最終位置に到達できない。《杵》という『矢絰Ⅱ』の検討方法を信じる所以でもある。

雲海さんのナイト王成禁協力詰（Onsite Fairy Mate 第167回出題）は、枡のパリティを使って詰手順の成立/不成立を論理的に見極めることができた。この色分けは同様の論理的追求の第一歩なのだが、【シナリオ】の絨毯爆撃で抽出したグループAのパターンの手順が駒数によっては成立してしまうように、おそらく盤の広さとそれに対する桂の枚数（ある種の濃度と言えよう。一定濃度を超えないと矢絰という結晶は生じない?!）という要素も考え合わせる必要がありそうだ。そうなると、これ以上の論理的追及は極めて難しくなると思う。

なお、【シナリオ】の絨毯爆撃の対象を6×7の縮小盤にしたのは、この色分けが背景にある。すなわち縮小盤の左下の配色が通常盤の左下の配色と同じになるようにしたのである。

また【シナリオ補強検証3】で、2手目相当局面の検証対象を96玉のみにしたのもこの色分けが背景にある。上述の通り86玉や87玉では、通過すべき枡の色が2色に収まらないのだ。

【拡張の余地】

『矢絣Ⅱ』の拡張はできないのだろうか。下図は『矢絣Ⅱ』の作意の玉の経路を、何手目にとどの枡に到達するのかで示したもの。

玉経路

			12			46		一
		10	14	42	50			二
		8	18	38	王			三
	6	22	34					四
	4	24	30					五
2			26					六
0								七
								八
								九

持駒 桂25

9×9 の盤をほぼ目一杯使った経路ではあるが、盤の左上に若干の余裕があるように見える。こういう経路に拡張できる可能性はないだろうか。

玉経路

	○		○				○	一
○		○		○	○	○	○	二
○				○	○		王	三
	○		○		○			四
	○		○		○			五
○				○				六
○								七
								八
								九

持駒 桂n

少し考えてみると、左上での玉の折り返しと桂の利きの干渉は回避できないことが分かる。部分的な拡張の余地はなさそうである。

念のため下記条件でミニ絨毯爆撃してみた。

- ・ 枳：4種
- ・ 王位置：12～14
- ・ 玉位置：85～97の矩形
- ・ 持駒：桂 26～桂 29 (/ETMMP=6)
- ・ 持駒：桂 30～桂 35 (/ETMMP=7)
- ・ 手数 = 持駒数 × 2 + 2

不詰でなかったのは4局(実質2局)で、いずれも唯一解ではなかった。うち1局は玉の経路が非常に特徴的で他にはないもの(しかも完全に想定外!)だったので非限定を解消してみた。

命名『ラウンドアバウト』。

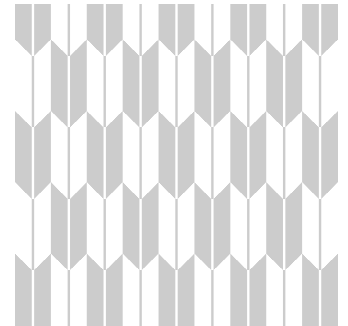
Kマドラシバか自殺スタイルメイト 58手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
								王	三
王									四
			桂						五
									六
				桂					七
									八
									九

持駒 桂26

【蛇足】

七郎さんも WFP で紹介していたが、これが矢絣模様。着物の柄としては、結構ポピュラーだと思っていたので、八級さんの「それにしても「矢絣」



という語は初めて見た。よく知っていたな」というコメントにはちょっと驚いた。八級さんが知らない語が世の中にどれだけ浸透しているのだろうか。あまり知られていないとすれば、命名の意義が薄れてしまう。それで、という訳でもないが、『矢絣Ⅱ』という語をインターネットで検索してみたところ、こういうのがヒットした。

38
矢絣Ⅱ



<http://www14.ocn.ne.jp/~handknit/works0408.html>

いやはや、『矢絣Ⅱ』には先例があったということ。これにはちょっと残念。

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

9月15日(金)

第44回WFP作品展

フェアリー作品 4作

第45回WFP作品展

フェアリー作品 5作

作品募集一覧

第13回詰四会フェアリー作品展

課題：合駒をちょっと読まされる作品
締切：平成24年8月26日(日)
投稿先：たくぼん takuji@dokidoki.ne.jp

第37回神無一族の氾濫

作品要件：利きのない駒を使う作品
締切：平成24年10月14日(日)
募集作品数：4(+α)
投稿先：神無七郎 janacek789@ybb.ne.jp
(詳細はP23参照)

Fairy of the Forest #33

課題：盤面駒に一色ふくむ協力詰
締切：平成24年10月15日(月)
投稿先：酒井博久 sakai8kyuu@hotmail.com
(詳細はP29参照)

【あとがき】

はっきりとした病気というより倦怠感に包まれていると言った感じの状態が続いています。ぼちぼちながら解図は続けていますが、創作のほうがさっぱりです。今月26日には詰四会も開催されますが、普通詰将棋に関して言えばもちろん在庫もありませんし、代表幹事とすれば前

回の汚名返上と行きたい所なのですが、なかなかねえ。少しはトライしてみようとは思っています。昨日はちょっとだけフェアリー作品創作を再開してみました。最近のWFP作品展も難解作が多いので、簡単な強欲シリーズをいうことで相変わらずのやつをつつきまして(素材で放置していたもの)2作何とか完成させました。くるくる級ですがまたお目見えすると思いますので解図よろしくお祈いします。

今月の読み物『矢絰II』までの道のり(神無太郎)は読み応え充分の論考です。正解者0というのは残念な結果でしたが、是非とも作品の本質を感じていただければと思います。

最近解答者が苦しめられる作品が多くなり、解図するには初級者にとってなかなか厳しい状況となっております。たくさんの方に解いて頂くには初心コーナーが必要でしょう。そんな中、フェアリー詰将棋のルールを優しく紹介してくれているブログが開設されていますので紹介します。

ブログ名：(・T・) ←読み方は「ぺろ」

<http://nekonekosen.blog.fc2.com/>

オーナーは「どなんざ」さんです。

*多分フェアリストとして有名なあの方と思いますが、確認していませんのでここでは書きません。是非訪問して盛り上げていて欲しいと思います。

たくぼん

2012年 第50号

Web Fairy Paradise

非売品

平成二十四年八月号

平成二十四年八月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合せ先 takuji@dokidoki.ne.jp